

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部を設置							
設置者	カッコウホウジン ショウショウガクエン 学校法人 常翔学園							
大学の名称	セツナダ 大学 摂南大学 (Setsunan University)							
大学本部の位置	大阪府寝屋川市池田中町17番8号							
大学の目的	摂南大学は、時代と地域の要請に基づき、深く専門の学術とその応用を教授研究するとともに、全人の育成を第一義として、人間力・実践力・統合力を養い、自らが課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人を育成し、もって社会の発展と学術・文化の向上をはかることを目的とする。							
新設学部等の目的	社会学を基礎とした幅広い見識を有し、社会学的想像力と実践力を身につけた、現代社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知的専門職業人を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	現代社会学部 [Faculty of Contemporary Social Studies]	年	人	年次 人	人		年 月 第 年次	大阪府寝屋川市池田中町17番8号
	現代社会学科 [Department of Contemporary Social Studies]	4	250	—	1,000	学士 (社会学) 【Bachelor of Arts in Sociology】	令和5年4月 第1年次	
	計		250	—	1,000			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件 単位数		
	現代社会学部 現代社会学科	講義	演習	実習	計			
		128科目	18科目	13科目	159科目	124単位		

	学部等の名称	専任教員等						兼任 教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
		人	人	人	人	人	人	
新設分	現代社会学部 現代社会学科	11 (11)	6 (6)	3 (3)	2 (2)	22 (22)	0 (0)	47 (30)
	計	11 (11)	6 (6)	3 (3)	2 (2)	22 (22)	0 (0)	— (—)
既設分	理工学部 生命科学科	9 (9)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	145 (145)
	住環境デザイン学科	5 (5)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	229 (229)
	建築学科	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	206 (206)
	機械工学科	6 (6)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	208 (208)
	電気電子工学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	193 (193)
	都市環境工学科	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	197 (197)
	基礎理工学機構	2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	国際学部 国際学科	14 (14)	10 (10)	13 (13)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	94 (94)
	経営学部 経営学科	11 (11)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	128 (128)
	薬学部 薬学科	19 (19)	17 (17)	13 (13)	16 (16)	65 (65)	3 (3)	102 (102)
	法学部 法律学科	10 (10)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	145 (145)
	経済学部 経済学科	10 (10)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	125 (125)
	看護学部 看護学科	11 (11)	8 (8)	8 (8)	11 (11)	38 (38)	0 (0)	102 (102)
	農学部 農業生産学科	7 (7)	1 (1)	4 (4)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	84 (84)
	応用生物科学科	5 (5)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	14 (14)	1 (1)	88 (88)
	食品栄養学科	10 (10)	4 (4)	2 (2)	2 (2)	18 (18)	4 (4)	88 (88)
	食農ビジネス学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	82 (82)
	教務部 ラーニングセンター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	5 (5)
	教育イノベーションセンター	1 (1)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	学生部 スポーツ振興センター	1 (1)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
	グローバル教育センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (4)
	学長付	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	計	148 (148)	103 (103)	69 (69)	38 (38)	358 (358)	8 (8)	— (—)
	合計	159 (159)	109 (109)	72 (72)	40 (40)	380 (380)	8 (8)	— (—)

教員組織の概要

教員以外の職員の概要	職種		専任	兼任	計				
			人	人	人				
	事務職員		156 (156)	59 (59)	215 (215)				
	技術職員		14 (14)	0 (0)	14 (14)				
	図書館専門職員		4 (4)	17 (17)	21 (21)				
	その他の職員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計			174 (174)	76 (76)	250 (250)				
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	151,384.54㎡	0㎡	0㎡	151,384.54㎡				
	運動場用地	147,400.85㎡	0㎡	0㎡	147,400.85㎡				
	小計	298,785.39㎡	0㎡	0㎡	298,785.39㎡				
	その他	17,352.60㎡	0㎡	0㎡	17,352.60㎡				
	合計	316,137.99㎡	0㎡	0㎡	316,137.99㎡				
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
		142,700.58㎡ (142,700.58㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	142,700.58㎡ (142,700.58㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	88室	112室	108室	15室 (補助職員6人)	34室 (補助職員5人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数					
		現代社会学部 現代社会学科		22室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚 資料 点	機械・ 器具 点	標本 点	大学全体での共用分 ・図書 526,749冊 [190,112冊] ・学術雑誌 3,817種 [2,382種] ・視聴覚資料 11,290点	
	現代社会学部	5,013 [160] (1,093 [40])	500 [100] (100 [20])	13 [13] (13 [13])	1 (1)	1,498 (1,498)	0 (0)		
	計	5,013 [160] (1,093 [40])	500 [100] (100 [20])	13 [13] (13 [13])	1 (1)	1,498 (1,498)	0 (0)		
図書館		面積	閲覧座席数		収納可能冊数				
		8,230.45㎡	1,175		635,945		大学全体		
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		7,416.47㎡	該当なし						
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当り研究費等		1,486千円	1,486千円	1,486千円	1,486千円	－千円	－千円	
	共同研究費等		1,828千円	1,828千円	1,828千円	1,828千円	－千円	－千円	
	図書購入費	9,657千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	－千円	－千円	
	設備購入費	126,929千円	0千円	0千円	0千円	0千円	－千円	－千円	
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,245千円	1,095千円	1,095千円	1,095千円	－千円	－千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、受取利息・配当金収入等						

既設大学等の状況	大学の名称	摂南大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍	年度	
	薬学研究科 博士課程 医療薬学専攻	4	4	—	16	博士 (薬学)	0.68	平成24年度	大阪府枚方市 長尾峠町45番1号
	理工学研究科 博士前期課程 社会開発工学専攻	2	12	—	24	修士 (工学)	1.24	平成元年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号
	生産開発工学専攻	2	12	—	24	修士 (工学)	0.91	平成26年度	同上
	生命科学専攻	2	10	—	20	修士 (理学)	1.20	平成26年度	同上
	理工学研究科 博士後期課程 創生工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.16	平成20年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号
	生命科学専攻	3	2	—	6	博士 (理学)	1.16	平成28年度	同上
	経済経営学研究科 修士課程 経済学専攻	2	5	—	10	修士 (経済学)	0.10	平成26年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号
	経営学専攻	2	5	—	10	修士 (経営学)	0.10	平成26年度	同上
	法学研究科 修士課程 法律学専攻	2	5	—	10	修士 (法学)	0.30	平成9年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号
	国際言語文化研究科 修士課程 国際言語文化専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.10	平成11年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号
	看護学研究科 修士課程 看護学専攻	2	6	—	12	修士 (看護学)	0.83	平成28年度	大阪府枚方市 長尾峠町45番1号

既設大学等の状況	大学の名称		摂南大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍	年度		
既設大学等の状況	理工学部						1.01			
	生命科学科	4	105	3年次5	400	学士(理学)	0.94	平成22年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号	令和3年度入学定員増(15人)
	住環境デザイン学科	4	85	3年次5	320	学士(工学)	1.00	平成22年度	同上	令和3年度入学定員増(15人)
	建築学科	4	80	3年次5	310	学士(工学)	1.05	昭和50年度	同上	令和3年度入学定員増(10人)
	機械工学科	4	130	3年次5	490	学士(工学)	1.02	昭和50年度	同上	令和3年度入学定員増(20人)
	電気電子工学科	4	105	3年次5	400	学士(工学)	1.07	昭和50年度	同上	令和3年度入学定員増(15人)
	都市環境工学科	4	80	3年次5	310	学士(工学)	0.97	平成22年度	同上	令和3年度入学定員増(10人)
	外国語学部									
	外国語学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和57年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号	令和4年度学生募集停止 令和6年度3年次編入学募集停止
	国際学部									
	国際学科	4	250	3年次5	250	学士(文学)	—	令和4年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号	令和4年度学部設置
	経営学部						1.04			
	経営学科	4	280	3年次6	798	学士(経営学)	1.05	平成18年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号	令和4年度入学定員増(110人)
	経営情報学科	4	—	—	—	学士(経営学)	—	昭和57年度	同上	令和4年度学生募集停止 令和6年度3年次編入学募集停止
	薬学部						1.02			
	薬学科(6年制)	6	220	—	1,320	学士(薬学)	1.02	平成18年度	大阪府枚方市長尾峠町45番1号	
	法学部						1.02			
	法律学科	4	280	3年次5	1,070	学士(法学)	1.02	昭和63年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号	令和3年度入学定員増(30人)
	経済学部						1.03			
	経済学科	4	280	3年次4	1,068	学士(経済学)	1.03	平成22年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号	令和3年度入学定員増(30人)
看護学部						1.02				
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.02	平成24年度	大阪府枚方市長尾峠町45番1号		
農学部						0.91				
農業生産学科	4	80	—	240	学士(農学)	0.88	令和2年度	大阪府枚方市長尾峠町45番1号	令和2年度学部設置	
応用生物科学科	4	80	—	240	学士(農学)	0.86	令和2年度	同上		
食品栄養学科	4	80	—	240	学士(農学)	0.85	令和2年度	同上		
食農ビジネス学科	4	100	—	300	学士(農学)	1.02	令和2年度	同上		

既設大学等の状況	大学の名称	大阪工業大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍	年度		
既設大学等の状況	工学研究科 博士前期課程 建築・都市デザイン工学専攻	2	30	—	60	修士 (工学)	0.91	平成29年度	大阪府大阪市旭区 大宮五丁目16番1号	
	電気電子・機械工学専攻	2	50	—	100	修士 (工学)	1.28	平成29年度	同上	
	化学・環境・生命工学専攻	2	30	—	60	修士 (工学)	1.26	平成29年度	同上	
	工学研究科 博士後期課程 都市デザイン工学専攻	3	—	—	—	博士 (工学)	—	昭和42年度	大阪府大阪市旭区 大宮五丁目16番1号	平成29年度学生募集停止
	生体医工学専攻	3	—	—	—	博士 (工学)	—	平成19年度	同上	平成29年度学生募集停止
	電気電子工学専攻	3	—	—	—	博士 (工学)	—	昭和42年度	同上	平成29年度学生募集停止
	建築・都市デザイン工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.33	平成29年度	同上	
	電気電子・機械工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.83	平成29年度	同上	
	化学・環境・生命工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.66	平成29年度	同上	
	ロボティクス&デザイン工学研究科 博士前期課程 ロボティクス&デザイン工学専攻	2	30	—	60	修士 (工学)	1.33	平成29年度	大阪府大阪市北区 茶屋町1番45号	
	ロボティクス&デザイン工学研究科 博士後期課程 ロボティクス&デザイン工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.50	平成29年度	大阪府大阪市北区 茶屋町1番45号	
	情報科学研究科 博士前期課程 情報科学専攻	2	40	—	80	修士 (情報学)	1.21	平成12年度	大阪府枚方市北山 一丁目79番1号	
	情報科学研究科 博士後期課程 情報科学専攻	3	5	—	15	博士 (情報学)	0.00	平成14年度	大阪府枚方市北山 一丁目79番1号	
	知的財産研究科 専門職学位課程 知的財産専攻	2	30	—	60	知的財産修士 (専門職)	1.18	平成17年度	大阪府大阪市旭区 大宮五丁目16番1号	

既設大学等の状況	大学の名称	大阪工業大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍	年度	
既設大学等の状況	工学部						1.02		
	都市デザイン工学科	4	100	3年次5	410	学士(工学)	1.10	昭和24年度	大阪府大阪市旭区大宮五丁目16番1号
	空間デザイン学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年度	同上
	建築学科	4	150	3年次5	610	学士(工学)	1.06	昭和24年度	同上
	機械工学科	4	140	3年次5	570	学士(工学)	1.00	昭和25年度	同上
	ロボット工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成22年度	同上
	電気電子システム工学科	4	125	3年次5	510	学士(工学)	1.01	昭和24年度	同上
	電子情報システム工学科	4	110	3年次5	450	学士(工学)	1.04	昭和34年度	同上
	応用化学科	4	130	3年次5	530	学士(工学)	0.98	昭和33年度	同上
	環境工学科	4	75	3年次5	310	学士(工学)	1.01	平成18年度	同上
	生命工学科	4	70	3年次5	290	学士(工学)	0.98	平成22年度	同上
	ロボティクス&デザイン工学部						1.08		
	ロボット工学科	4	90	3年次5	370	学士(工学)	1.07	平成29年度	大阪府大阪市北区茶屋町1番45号
	システムデザイン工学科	4	90	3年次5	370	学士(工学)	1.10	平成29年度	同上
	空間デザイン学科	4	100	3年次5	410	学士(工学)	1.06	平成29年度	同上
	情報科学部						1.04		
	データサイエンス学科	4	70	—	140	学士(情報学)	1.02	令和3年度	大阪府枚方市北山一丁目79番1号
	情報知能学科	4	90	3年次5	400	学士(情報学)	1.02	平成8年度	同上
	情報システム学科	4	105	3年次5	430	学士(情報学)	1.01	平成8年度	同上
	情報メディア学科	4	105	3年次5	430	学士(情報学)	1.07	平成14年度	同上
ネットワークデザイン学科	4	90	3年次5	400	学士(情報学)	1.07	平成19年度	同上	
知的財産学部						1.08			
知的財産学科	4	140	3年次10	580	学士(知的財産学)	1.08	平成15年度	大阪府大阪市旭区大宮五丁目16番1号	

平成29年度学生募集停止
平成31年度3年次編入学募集停止

平成29年度学生募集停止
平成31年度3年次編入学募集停止

平成31年度から名称変更
電子情報通信工学科→
電子情報システム工学科

令和3年度学科設置

平成31年度から名称変更
コンピュータ科学科→
情報知能学科
令和3年度入学定員減
(△15人)

平成31年度から名称変更
情報ネットワーク学科→
ネットワークデザイン学科
令和3年度入学定員減
(△15人)

既設大学等の状況	大学の名称	広島国際大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍	年度	
	看護学研究科 博士前期課程 看護学専攻	2	10	—	20	修士 (看護学)	0.10	平成15年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号
	看護学研究科 博士後期課程 看護学専攻	3	3	—	9	博士 (看護学)	0.00	平成24年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号
	医療・福祉科学研究科 博士前期課程 医療工学専攻	2	10	—	20	修士 (医療工学)	1.05	平成21年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36
	医療・福祉科学研究科 博士後期課程 医療工学専攻	3	2	—	6	博士 (医療工学)	0.83	平成21年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36
	医療・福祉科学研究科 修士課程 医療福祉学専攻	2	5	—	10	修士 (医療福祉学)	0.10	平成21年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36
	医療経営学専攻	2	5	—	10	修士 (医療経営学)	0.40	平成21年度	同上
	心理科学研究科 博士後期課程 臨床心理学専攻	3	2	—	6	博士 (臨床心理学)	0.00	平成21年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36
	心理科学研究科 専門職学位課程 実践臨床心理学専攻	2	20	—	40	臨床心理修士 (専門職)	0.50	平成21年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号
	薬学研究科 博士課程 医療薬学専攻	4	2	—	8	博士 (薬学)	0.37	平成24年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号

既設大学等の状況	大学の名称	広島国際大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍	年度		
	保健医療学部 診療放射線学科	4	70	—	280	学士 (診療放射線学)	1.09 1.19	平成10年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	
	医療技術学科 臨床工学専攻 臨床検査学専攻	4	100	—	430	学士 (臨床工学) (臨床検査学)	1.01	平成25年度	同上	令和2年度入学定員減 (△30人)
	救急救命学科	4	50	—	150	学士 (救急救命学)	1.14	令和2年度	同上	令和2年度学科設置
	総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科	4	180	—	670	学士 (理学療法学) (作業療法学) (言語聴覚療法学) (義肢装具学)	1.08 1.12	平成25年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	令和2年度入学定員増 (50人) (義肢装具学専攻をリハビリテーション 支援学科から移行)
	リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	4	—	—	—	学士 (義肢装具学)	—	平成25年度	同上	令和2年度学生募集停止
	医療福祉学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻 介護福祉学専攻 保育学専攻	4	—	—	—	学士 (医療福祉学)	—	平成10年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	令和2年度学生募集停止 令和4年度3年次編入学募集停止
	医療経営学部 医療経営学科	4	—	—	—	学士 (医療経営学)	—	平成23年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	令和2年度学生募集停止
	心理科学部 臨床心理学科	4	—	—	—	学士 (臨床心理学)	—	平成13年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	平成27年度学生募集停止 平成29年度3年次編入学募集停止
	心理学部 心理学科	4	—	—	—	学士 (心理学)	—	平成27年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	令和2年度学生募集停止 令和4年度3年次編入学募集停止
	看護学部 看護学科	4	120	3年次 10	500	学士 (看護学)	1.03 1.03	平成15年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号	
	薬学部 薬学科(6年制)	6	120	—	720	学士 (薬学)	0.86 0.86	平成18年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号	
	医療栄養学部 医療栄養学科	4	—	—	—	学士 (医療栄養学)	—	平成26年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号	令和2年度学生募集停止
	健康科学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻 介護福祉学専攻 保育福祉学専攻	4	100	—	300	学士 (医療福祉学)	0.81 0.56	令和2年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	令和2年度学部設置
	医療経営学科	4	90	—	270	学士 (医療経営学)	0.97	令和2年度	同上	
	心理学科	4	100	—	300	学士 (心理学)	0.85	令和2年度	同上	
	医療栄養学科	4	60	—	180	学士 (医療栄養学)	0.94	令和2年度	広島県呉市広古新開 五丁目1番1号	

既設大学等の状況	大学の名称	広島国際大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
健康スポーツ学部 健康スポーツ学科	年	人	年次人	人		倍	年度		令和2年度学部設置
	4	70	—	210	学士 (健康スポーツ学)	1.11 1.11	令和2年度	広島県東広島市 黒瀬学園台555番地36	
附属施設の概要	名称：テクノセンター 目的：工学分野教育 所在地：大阪府寝屋川市池田中町17番8号 設置年月：平成11年4月 規模等：面積691.81㎡								
	名称：薬用植物園 目的：薬学分野教育 所在地：京都府八幡市美濃山西ノ口1番 設置年月：昭和57年4月 規模等：面積1,720.00㎡								
	名称：臨床薬学教育研究センター 目的：薬学分野教育 所在地：大阪府枚方市長尾峠町45番1号 設置年月：平成20年4月 規模等：面積1,584.59㎡								
	名称：農場 目的：農学分野教育 所在地：京都府八幡市美濃山一ノ谷1番 設置年月：令和2年4月 規模等：面積15,632.60㎡								

教育課程等の概要

(現代社会学部 現代社会学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	基礎科目	現代社会学入門	1前	2			○			6	4		2		オムニバス・共同	
		現代社会の諸問題	1前	2			○			5	2	3	2			
		社会学説史	1前		2			○			1					
		社会心理学	1前		2			○			1					
		環境社会学	1前		2			○			1					
		都市計画論	1前		2			○			1					
		メディア社会学	1前		2			○			1					
		文化社会学	1前		2			○			1					
		日本社会変動史	1後		2			○			1					
		自我と関係の社会学	1後		2			○			1					
		スポーツ社会学	1後		2			○			1					
		地域福祉論	1後		2			○					1			
		地域社会学	1後		2			○			1					
		産業労働社会学	1後		2			○				1				
		情報社会学	1後		2			○				1				
		福祉社会学	2前		2			○				1				
		ジェンダー論	2前		2			○			1					
		家族社会学	2前		2			○			1					
		社会運動・ボランティア論	2前		2			○					1			
		子どもと教育の社会学	2後		2			○				1				
		国際社会学	2後		2			○				1				
臨床心理学	2後		2			○				1						
地域スポーツ論	2後		2			○					1					
小計(23科目)		—	4	42	0	—			11	6	3	2	0	0	—	
社会調査士関連科目	社会調査入門	1前	2			○			1	2						
	社会調査法	1後	2			○			1	2						
	基礎統計学	1後	2			○			2							
	社会統計学	2前		2		○				1						
	多変量解析法	2後		2		○			1							
	質的調査法	2後		2		○				1						
	社会調査実習Ⅰ(量的)	3前		2				○		1						
	社会調査実習Ⅰ(質的)	3前		2				○		1						
	社会調査実習Ⅱ(量的)	3後		2				○		1						
	社会調査実習Ⅱ(質的)	3後		2				○		1						
小計(10科目)		—	6	14	0	—			3	4	0	0	0	0	—	
FAL科目	FAL入門	1前	2			○			1	2	2	2		共同		
	FAL実践	1後		2			○		1		2	2				
	FAL演習Ⅰ	1通		2			○		11	6	3	2		兼1		
	FAL演習Ⅱ	2通		2			○		11	6	3	2		兼1		
	FAL演習Ⅲ	3通		2			○		11	6	3	2		兼1		
	FAL演習Ⅳ	4通		2			○		11	6	3	2		兼1		
小計(6科目)		—	2	10	0	—			11	6	3	2	0	兼1	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	展開科目	社会構造変動史	2後	2			○			1						
		日常生活世界論	2後	2			○			2						オムニバス
	ソーシャルイノベーション科目群	地域社会形成論	3前		2			○		1						
		人間環境の社会学	3前		2			○		1						
		階層構造変動史	3前		2			○		1						
		自然と科学の社会学	3後		2			○		1						
		エスニシティ論	3後		2			○			1					
		教育の歴史社会学	3後		2			○				1				
		政治文化の社会学	3後		2			○		1						
		SDGsと国際社会	4前		2			○								兼1
	ライフデザイン科目群	生涯スポーツ論	3前		2			○					1			
		思春期・若者論	3前		2			○			1					
		犯罪・非行の社会学	3前		2			○			1					
		仕事とくらしの社会学	3前		2			○			1					
		ジェロントロジー	3後		2			○			1					
		都市住宅論	3後		2			○		1						
		観光地域福祉論	3後		2			○				1				
		ヘルスプロモーション論	3後		2			○		1						
	メディア・コミュニケーション科目群	ビデオ・エスノグラフィー	3前		2			○		1						
		司法・犯罪心理学	3前		2			○		1						
		地域メディア論	3前		2			○			1					
		差別の社会学	3前		2			○		1						
		身体とコミュニケーション	3後		2			○		1						
		広報メディア論	3後		2			○		1						
		映画を読み解く社会学	3後		2			○		1						
		ジャーナリズム論	4後		2			○								兼1
小計(26科目)	—	4	48	0		—		11	6	3	0	0	0	兼2	—	
演習・卒業研究	初年次ゼミ	1前		2			○		11	6	3					
	初年次演習	1後		2			○		11	6	3					
	基礎演習Ⅰ	2前		2			○		11	6	3					
	基礎演習Ⅱ	2後		2			○		11	6	3					
	専門演習Ⅰ	3前		2			○		11	6	3					
	専門演習Ⅱ	3後		2			○		11	6	3					
	卒業研究Ⅰ	4前		3			○		11	6	3					
	卒業研究Ⅱ	4後		3			○		11	6	3					
小計(8科目)	—	18	0	0		—		11	6	3	0	0	0	0	—	
教養科目	人文科学系	日本の歴史	1前		2			○								兼1
		世界の歴史	1後		2			○								兼1
		心理学Ⅰ	2前		2			○								兼1
		心理学Ⅱ	2後		2			○								兼1
		哲学Ⅰ	2前		2			○								兼1
		哲学Ⅱ	2後		2			○								兼1
		人文地理学	2前		2			○								兼1
		地誌学	2後		2			○								兼1
		文学から学ぶ	3前		2			○								兼1
	小計(9科目)	—	0	18	0		—		0	0	0	0	0	0	兼6	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養科目	社会科学系	法学入門	1前		2		○									兼1	
		日本国憲法	1後		2		○									兼1	
		日本の政治	2前		2		○									兼1	
		経済学入門	2前		2		○									兼1	
		世界の政治	2後		2		○									兼1	
		経営学入門	3前		2		○									兼1	
		小計(6科目)	—	0	12	0		—		0	0	0	0	0	0	兼6	—
	自然・科学技術系	公衆衛生学	2前		2		○									兼1	
		自然地理学	2後		2		○									兼1	
		科学技術教養	3前又は後		2		○									兼1	
		小計(3科目)	—	0	6	0		—		0	0	0	0	0	0	兼3	—
	英語系	基礎英語Ⅰa	1前	1			○									兼3	
		基礎英語Ⅱa	1後		1		○									兼3	
		実践英語Ⅰa	2前		1		○									兼2	
		実践英語Ⅱa	2後		1		○									兼2	
		時事英語Ⅰ	3前		1		○									兼2	
		時事英語Ⅱ	3後		1		○									兼2	
		英語基礎会話Ⅰ	1前		1		○									兼5	
		英語基礎会話Ⅱ	1後		1		○									兼5	
	小計(8科目)	—	1	7	0		—		0	0	0	0	0	0	兼12	—	
	外国語系	海外語学研修	1・2・3・4前又は後		2				○							兼1	集中
小計(1科目)		—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	0	兼1	—	
日本語系	日本語基礎	1前	1			○									兼3		
	日本語表現	1後		1		○									兼3		
	小計(2科目)	—	1	1	0		—		0	0	0	0	0	0	兼3	—	
数理・情報系	数学基礎	1前	1			○									兼2		
	データサイエンス基礎	1前	1				○								兼1		
	情報リテラシー	1後		1			○								兼1		
	小計(3科目)	—	2	1	0		—		0	0	0	0	0	0	兼4	—	
キャリアデザイン系	キャリア基礎	1前	1				○								兼1		
	キャリアデザイン	2前		1			○								兼1		
	インターンシップ	3通		2				○							兼1	集中 ※講義	
	ビジネス実務	3前		2		○									兼1		
	小計(4科目)	—	1	5	0		—		0	0	0	0	0	0	兼1	—	
スポーツ系	スポーツ科学実習Ⅰ	1前		1				○							兼2		
	スポーツ科学実習Ⅱ	1後		1				○							兼2		
	小計(2科目)	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	0	兼2	—	
共通基礎系	大学教養入門	1前	2			○									兼1		
	大学教養実践	1後		2		○									兼1		
	数的能力開発Ⅰ	2前		1		○									兼1		
	就職実践基礎	2後		1		○									兼1		
	小計(4科目)	—	2	4	0		—		0	0	0	0	0	0	兼3	—	
外国人留学生対象科目	日本事情FⅠ	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	日本事情FⅡ	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	日本語読解FⅠ	1・2・3・4前		1		○									兼1		
	日本語読解FⅡ	1・2・3・4後		1		○									兼1		
	日本語文法FⅠ	1・2・3・4前		1		○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	外国人留学生対象科目	日本語文法FⅡ	1・2・3・4後	1		○									兼1	
		日本語表現作文FⅠ	1・2・3・4前	1		○									兼1	
		日本語表現作文FⅡ	1・2・3・4後	1		○									兼1	
		日本語総合FⅠ	1・2・3・4前	1		○									兼1	
		日本語総合FⅡ	1・2・3・4後	1		○									兼1	
		専門日本語FⅠ	1・2・3・4前	1		○									兼1	
		専門日本語FⅡ	1・2・3・4後	1		○									兼1	
		日本語会話FⅠ	1・2・3・4前	1		○									兼1	
		日本語会話FⅡ	1・2・3・4後	1		○									兼1	
	小計(14科目)	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4	—
	帰国学生対象科目	日本事情RⅠ	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		日本事情RⅡ	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		日本語読解R	1・2・3・4前	1		○									兼1	
		日本語文法R	1・2・3・4後	1		○									兼1	
		日本語表現作文R	1・2・3・4前	1		○									兼1	
		日本語総合R	1・2・3・4後	1		○									兼1	
		専門日本語R	1・2・3・4前	1		○									兼1	
		日本語会話R	1・2・3・4後	1		○									兼1	
	小計(8科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4	—
教職課程の設置により開設する授業科目	社会科教育法Ⅰ(地歴分野)	3前			2	○								兼1		
	社会科教育法Ⅱ(地歴分野)	3後			2	○								兼1		
	社会科教育法Ⅲ(公民分野)	3前			2	○								兼1		
	社会科教育法Ⅳ(公民分野)	3後			2	○								兼1		
	教育原理	1前又は後			2	○								兼1		
	教師論	1前			2	○								兼1		
	教育経営論	2前又は後			2	○								兼1		
	教育心理学	1前又は後			2	○								兼1		
	特別支援教育論	3前又は後			2	○								兼1		
	教育課程論	2前又は後			2	○								兼1		
	道徳教育論	3前又は後			2	○								兼1		
	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	1前又は後			2	○								兼1		
	教育方法論	2前又は後			2	○								兼1		
	教育における情報通信技術の活用	2前又は後			1	○								兼1		
	生徒指導論(進路指導を含む)	2前又は後			2	○								兼1		
	教育相談(カウンセリングの基礎を含む)	3前又は後			2	○								兼1		
	教育実習Ⅰ	3前又は後			1			○						兼1		
	教育実習Ⅱ	4通			2			○						兼1		
	教育実習Ⅲ	4通			4			○						兼1		
	教職実践演習(中・高)	4後			2		○							兼1		
	地域連携教育活動Ⅰ	2前又は後			2			○						兼1		
	地域連携教育活動Ⅱ	2前又は後			2			○						兼1		
小計(22科目)	—	0	0	44	—			0	0	0	0	0	0	兼7	—	
合計(159科目)		—	41	198	44	—		11	6	3	2	0	0	兼47	—	
学位又は称号		学士(社会学)		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
本大学に4年以上在学し、所定の授業科目について、専門科目86単位以上〔必修科目34単位、選択科目52単位以上（注1）〕、教養科目38単位以上〔必修科目7単位、選択科目31単位以上〕の合計124単位以上を修得し、かつ入学時からの累積GPAが1.3以上であること。 （注1）〔専門科目の選択科目〕 基礎科目から16単位以上、FAL科目から2単位以上、展開科目から18単位以上（各科目群から2単位以上を含む）を含む [履修科目の登録の上限：1年次・2年次各44単位、3年次・4年次各48単位（年間）]	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週
	1 時限の授業時間	90分

授業科目の概要			
(現代社会学部 現代社会学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基礎科目	現代社会学入門	<p>(概要) 本授業は、受講生が「自分の日常の出来事が社会学での話題に結びついていること」「社会学での重要タームが日常のさまざまな場면을説明できること」などについての「気づき」を体験する、ということの基本コンセプトにする。「知識を定着させる」ことを主眼とする高校までの社会科とは異なり、社会学では知識や視点を得た後それを他の場面に応用したり、知識を活かして未知の現象を解明したりすることに1つの主眼がある。そのため、上記のような「気づき」は社会学の面白さそのものでもあり、社会学的な営為を進める原動力にもなり得るものとなるのである。授業では「日常と他者」「教育と逸脱」「都市生活と移動」「エイジングと地域」といったテーマに沿って、われわれの生活のさまざまな側面をオムニバスの取り扱う。授業の中では教員からの話題提供の後、ディスカッションや報告などを含めた多様なアクティブ・ラーニング形式を取り入れたかたちで学びを進める。こうした作業を通して、受講生が多方面にわたるテーマについて上記のような「気づき」を得て、後の4年間の学びに向けた基本姿勢を確立することが、本授業の狙いである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 岩井八郎/3回:第6~8回) (4 檜田美雄/9回:第1~5・12~15回) (8 平山洋介/3回:第9~11回) (9 藤井和佐/3回:第12~14回) (10 堀田裕子/4回:第2~5回) (11 好井裕明/4回:第2~5回) (12 落合知子/3回:第9~11回) (13 小池高史/3回:第12~14回) (14 竹中祐二/3回:第6~8回) (17 山本圭三/8回:第1・6~11・15回) (21 加戸友佳子/全15回) (22 中澤芽衣/全15回)</p> <p>第1回(共同): 本授業のイントロダクションとして、授業の目標や狙い、方法、評価のしくみや基準について解説する。受講生は、授業内で今後どのように学んでいくのか、どのような点が評価されるのかといった点について理解する。</p> <p>以降の回では、前半に教員から話題提供を行う。当該テーマに関する議論と日々の出来事の関連についての事例を解説し、受講生はそれを自分自身に置き換えて考える。後半は当該テーマに関するディスカッションなどを行う。</p>	オムニバス方式・共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目	現代社会学入門	<p>第2回～第5回（共同）： 「日常と他者」をテーマに講義する。第2回「日常性の社会学」、第3回「他者とのつながりの社会学」、第4回「相互性の社会学」、第5回まとめのディスカッションとアウトプット</p> <p>第6回～第8回（共同）： 「教育と逸脱」をテーマに講義する。第6回「教育の社会学」、第7回「逸脱行動の社会学」、第8回まとめのディスカッションとアウトプット</p> <p>第9回～11回（共同）： 「都市生活と移動」をテーマに講義する。第9回「都市生活の社会学」、第10回「移動と定着の社会学」、第11回まとめのディスカッションとアウトプット</p> <p>第12回～14回（共同）： 「エイジングと地域」をテーマに講義する。第12回「エイジングの社会学」、第13回「地域の社会学」、第14回まとめのディスカッションとアウトプット</p> <p>第15回（共同）： 本授業のまとめとして、全体のまとめと本授業の内容と今後の学びとの関連について解説する。受講生は、授業全体の内容を定着するとともに、講義内容・成果が今後の学びにどう結びついていくのかを各自が考える。</p>	オムニバス方式・共同
		現代社会の諸問題	<p>（概要）現代社会は、さまざまな解決すべき諸問題に直面している。本授業ではこれを、①グローバル（地球的）で、しかも同時にローカル（地域的）に立ち現れている諸問題（自然環境と先端科学技術、平和・戦争とメディア、地域と生活・福祉など）、②大学生にとって身近な生活上の諸問題（学校と教育、家族と心理、コミュニティと情報など）、そして③一人ひとりの人間の身体や心と社会をつなぐ諸問題（健康と保健・衛生、生活とスポーツ、心身とコミュニケーション）という3つの領域で考察する。現代社会におけるさまざまな諸問題に関する基礎知識を学ぶとともに、社会の構造やその変動、および個々人の日常生活における解決課題を相互に関連させて捉える「社会学的想像力」を身に付ける。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（1 浅野慎一／6回：第1・2・6・10・14・15回） （2 稲生勝／4回：第2・3・6・15回） （5 後和美朝／4回：第2・11・14・15回） （6 須藤遙子／4回：第2・4・6・15回） （7 田中晶子／4回：第2・8・10・15回） （15 竹端佑介／4回：第2・13・14・15回） （16 松本恭幸／4回：第2・9・10・15回） （18 上野山裕士／4回：第2・5・6・15回） （19 江口怜／4回：第2・7・10・15回） （20 谷めぐみ／4回：第2・12・14・15回） （21 加戸友佳子／全15回） （22 中澤芽衣／全15回）</p>	オムニバス方式・共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目	現代社会の諸問題	<p>第1回（共同）： 授業の目的・到達目標・方法、および現代社会の諸問題についての基本的な認識・概念について説明し、学生のコメントを素材にディスカッションを行う。</p> <p>第2回（共同）： 現代社会の諸問題に関する学生のプレゼンテーション、ディスカッションを行う。</p> <p>第3回（共同）： 深刻さを増す気候危機について、諸科学（自然科学、社会科学、技術学など）からの指摘を紹介した上で、社会や行動のあるべき姿を考える。</p> <p>第4回（共同）： 戦争時のメディア報道は、戦争の在り方・行方・世論に大きな影響をもたらす。本講では、戦争での SNS を含むメディアの役割や影響について考察する。</p> <p>第5回（共同）： 地域には、価値観と境遇の多様化に起因するさまざまな「生きづらさ」が存在する。これを社会で解消していくための方法、一人ひとりができることを、地域福祉の観点から考える。</p> <p>第6回（共同）： グローバルな現代社会の諸問題に関する学生のプレゼンテーション・ディスカッションを行う。</p> <p>第7回（共同）： 近代の学校システムは今、さまざまな課題を抱えており、学校批判や学校改革がさまざまに議論されている。本講では「学校」とはそもそも何かを歴史的に振り返りながら、現在の「学校」をどのように考えればよいかを議論する。</p> <p>第8回（共同）： 家族という集団の特徴、家族に関する事項、家族を通して浮かび上がる諸問題を心理学の視点から考える。</p> <p>第9回（共同）： 学生にとって身近なサードスペース（居場所）は、地域コミュニティの人の繋がり希薄化、情報化社会におけるオンラインコミュニティの誕生により、大きく変化しつつある。本講では、より良いサードスペースの在り方を考察する。</p> <p>第10回（共同）： 身近な現代社会の諸問題に関する学生のプレゼンテーション・ディスカッションを行う。</p> <p>第11回（共同）： 生涯のライフステージにはそれぞれに特有の健康課題がある。本講では、それらの発症要因について考え、現代社会における我が国の保健・衛生活動について議論する。</p>	オムニバス方式・共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目	現代社会の諸問題	<p>第12回（共同）： 現代社会におけるスポーツの社会的意義や価値、役割について考察する。また、スポーツをめぐる諸問題を多角的に検討し、変化する社会や生活との関連で、今後の望ましいスポーツの在り方を考える。</p> <p>第13回（共同）： 現代において、われわれは多様なストレスを抱えている。私たちを取り巻く“外界”との関わりによって生じる心身のストレスと自己との対話について考え、議論する。</p> <p>第14回（共同）： 身体と心をめぐる現代社会の諸問題に関する学生のプレゼンテーション・ディスカッションを行う。</p> <p>第15回（共同）： 現代社会の諸問題に関する学生の総括的なプレゼンテーション・ディスカッションを行う。</p>	オムニバス方式・共同
		社会学説史	<p>現代社会を捉えるものの見方にはどのようなものがあるだろうか。社会学ではそれぞれが生きた時代状況を反映した理論の蓄積がある。本授業ではカール・マルクスから始め、エミール・デュルケーム、マックス・ヴェーバー、ゲオルグ・ジンメル、シカゴ社会学、アーバン・エスグラフィ、G.H.ミード、R.K.マートン、T.パーソンズ、E.ゴフマン、A.シュッツ、H.ガーフィンケルを中心として、彼らが創造した理論や概念をわかりやすく説明する。それらは社会を捉える基礎であり社会学を考える基礎と言える。「資本」「労働」「価値」「合理性」「行為」「構造」「関係性」「自己」「共在」「日常生活世界」「人々の方法」という概念と社会の見方を理解し、自分自身の問題関心に活用できる知として受講生各自が習得することを目的とする。</p>	
		社会心理学	<p>社会心理学は、私たちが暮らす社会の中で、人と人で行われるやりとりの法則や生じやすい問題、集団や社会の中での個人の行動について、心理学的観点から明らかにすることを目的としている。幅広い社会心理学の分野の中から本授業では、社会的認知、社会的影響、対人コミュニケーション、集団の中での個人の行動について基礎的なトピックスを取り上げ、概説する。本授業を履修することにより、社会心理学で扱われる事象についての基本的知識を得ること、日常生活における自分や他者の行動について社会心理学的な視点から理解することを目指す。</p>	
		環境社会学	<p>人類存続の危機とも言われる環境危機について、現代社会の矛盾の現れとして把握していく。気候危機や生物多様性減少などの地球規模の環境問題をもたらす現代社会の問題を講義する。さらに、地球規模の環境問題と日本の公害問題の連続性を考察し、公害をめぐる3段階の似非科学論争が現代社会の問題として出現していることを講義する。また、公害反対運動が今日、環境問題への対応の基本原則となっている予防原則、製造者責任、汚染者不安原則などを創造したことを確認する。さらに、現在、国際的に盛り上がっている環境保全の運動も紹介する。その上で何をなすべきかを考えていく。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目	都市計画論	都市空間の形成において、社会的技術としての都市計画は重要な役割を果たしてきた。本授業では、都市計画の軌跡を把握し、将来を展望するために、まず、近代以降の主な建築・都市計画家が都市空間の在り方をどのように構想したのかを講述する。都市計画の思想と実践の歴史をみたく、グローバル経済の拡大、産業の脱工業化、国家政策の市場重視への転換、人口・家族構造の変化、リスク社会形成などの前世紀末からのメガトレンドの中で、先進諸国の多くに共通して、都市再生が課題となった状況を取り上げ、オフィス建築、超高層住宅、消費施設、アミューズメント施設などの大規模開発が増え、同時に、市民・住民参加の街づくりが展開したプロセスを検討する。	
		メディア社会学	スマートフォンの普及率が9割ほどになり、IoTやメタバースなどのデジタル・テクノロジーの進化で、現代社会はメディア社会となっている。本授業では、4大マス・メディアの歴史や基本的なマス・コミュニケーションの効果理論を概観し、現在のデジタルメディアを批判的に使用、考察することを目的とする。番組制作における企画立案、演出、編集の経験を踏まえながら、メディアを多角的に分析する。	
		文化社会学	文化社会学は、社会学の一部であると同時に全体でもある。既存の文化を分析対象とするとき、それは「文芸社会学」や「演劇社会学」「映画社会学」「音楽社会学」などの諸・連字符社会学の集合体として、社会学の一部である。しかし、「文化現象として扱い得るすべてのもの」を分析対象とするとき、それは社会学のフロンティアを切り開く活動そのものであり、「人々の世界認識」を扱う点で、社会学全体であるとも言えよう。本授業では、「現代社会学部的文化社会学」を講じる。前者の狭義の文化社会学から入って後者の広義の文化社会学までの展望を内在的に呈示する。社会学的思考の発展を追体験しつつ、社会学が人々を説明する社会学から、人々から学ぶ社会学に自己革新している現況を実感してもらおう。受講生の生活経験の在り方そのものが現代文化の実相である、ということを得てもらおうことが本授業の目標である。	
		日本社会変動史	「日本・日本人」の誕生から現代に至る日本の社会構造とその変動過程を学ぶ。前半では、とくに「日本・日本人」という民族・ネーション・エスニシティ（エトノス）の史的構築のプロセスを、古代以降、近現代に至る東アジアの越境的な政治・経済・社会・文化圏の変動史に位置づけて考察する。後半では、現代日本の学校教育・家族・企業社会など身近な生活・文化・社会意識の在り方を、歴史的な社会構造変動の視座から捉え直す。歴史を踏まえ、現代日本社会の解決課題を再考し、未来社会の創造の可能性を探る。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目	自我と関係の社会学	私たちはさまざまな具体的な関係の中で、他者やモノとの相互行為を通じて社会とつながると同時に、自我を形成していく。本授業では、相互行為論の考え方を軸に、関係の中で生じる社会化と自我の形成、アイデンティティをめぐる問題、地位－役割の働きについて学び、自我と関係についての理解を深める。また、日常生活における出来事や行為を関係の中でまなざす視点も学習していく。差別と排除、逸脱、孤独と孤立といった諸問題や、日常生活の一部となったインターネットにおける関係について、そこで行われている相互行為を事例とともに考えていく。これらの学びによって、自己を理解することは関係を理解することであり他者を理解することである、という観点を獲得することが目的である。	
		スポーツ社会学	現代社会におけるスポーツはそれ自体を楽しむだけでなく、他のさまざまな社会的事象に影響を与えている。例えば、オリンピック一つをみても本来はスポーツの祭典として始まったが、現代では開催国の経済的影響を強く受けるだけでなく、政治や人権問題などのさまざまな要因が関わりながら開催されている。また、スポーツや運動は本来自身が行うものであったが、メディアの発展により「観る」スポーツが生まれ、最近ではゲームの中で行われる「eスポーツ」の各種大会が開催されている。本授業では、遊びや運動、スポーツと人間との関わりについて解説するとともに、現代社会におけるスポーツと社会的事象との関わりについて理解を深める。	
		地域福祉論	地域に存在するさまざまな生きづらさを地域で暮らす、活動する、働く人々の手で解決するための手法を地域福祉の概念から検討する。本授業では、地域福祉および地域の課題解決に関する諸理論とともに、地域福祉の実践事例を紹介する。また、それらの理論と実践の知見を踏まえ、受講者自身が居住地域（出身地域）に存在する生きづらさとその解消方法について考える機会を設ける。これらの学びを通じて受講生は、地域福祉について理解するとともに、自分なりの地域との向き合い方を明確にすることが期待される。	
		地域社会学	「地域社会」は、私たちにとって当たり前のものだろうか。公園を掃除する人、子どもたちを横断歩道で見守る人、お祭りの準備をする人。その人たちは、何故それをやっているのだろうか。それは何を意味するのだろうか。自明であると思われるようなことがらをあらためて考えるためのひとつの方法として社会学はある。普段は考えることのないような地域社会や地方社会に目を向け、多角的にアプローチするために地域社会学における概念や方法論、理論を学び新たな認識の視座を獲得する。	
		産業労働社会学	本授業では、産業や労働に関する対象について、社会的分析視点に基づいた講義を行う。基礎科目として、産業・労働分野における古典的研究などを紹介するとともに、労働に関わる基本的な制度や構造、人々の働き方の現状といった話題を取り上げる。また若者、ジェンダーといった個別のトピックについて、その領域での重要事項についても取り上げる。こうした内容を通して受講生が産業・労働分野における基礎事項を理解すること、今日の労働世界の実情・問題とその背景について社会的な観点で把握できるようになることが、本授業の狙いである。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目	情報社会論	<p>情報社会におけるネットメディアの普及の中で起きた人々のコミュニケーションやライフスタイルの変化の歴史について学び、これからの情報社会の展望とそこで生活する市民にとって必要なメディアリテラシー(とくにメディアを活用して社会のさまざまなコミュニティの人たちとパブリックコミュニケーションを行う能力)について考える。そのためにはネットメディアの発展の歴史やそれを活用したコミュニケーションの仕組みの変遷について正確に理解することが必要で、本授業では80年代のパソコン通信の誕生から今日に至るまでのネットメディアの歴史について、記録映像なども利用して概説するとともに、これからの社会でのネットメディアを活用したさまざまな取り組み(防災システムの構築、オープンデータの活用、コミュニティアーカイブの構築など)についても、個別の事例研究を通して考察し、理解を深めることを目的とする。</p>	
		福祉社会学	<p>福祉社会学は、広い意味での福祉を対象とする社会学である。現代社会では、人口の高齢化や人口減少が進む中、福祉や生活の質の考え方がますます重要なものになってきている。そのため、福祉という側面から、現代社会を捉える視点を持つことの重要性も高まっている。本授業では、福祉社会学の基本概念や現代の社会課題について学び、私たちが他者をケア(支援)すること、他者からケア(支援)を受けることがどういったことなのか、理解することを目的とする。</p>	
		ジェンダー論	<p>男女の人口はほぼ同じなのに、なぜ女性は社会的マイノリティであり続けるのか。なぜそもそも人間の性は二つと決められているのか。性にとらわれない生き方はどのようにしたら可能になるのか。本授業では、以上の問題意識に基づき、まず性を社会問題として扱う出発点として、フェミニズムという思想および社会運動の歴史と争点を概観する。そして、私たちがライフコースの中で経験する性に関わる諸問題について、国際比較を交えて考えていく。また、性の観点からまなざされる身体が経験する、性の商品化、性暴力、身体変工への指向に関する諸議論を見ていく。これらに基づき、セックス、ジェンダー、セクシュアリティにおいて自分と異なる立場にある人々を理解することを目的としている。</p>	
		家族社会学	<p>家族は親密な人間関係の礎であり、次世代の再生産を担う基盤とみなされてきた。そのため家族は社会政策の主要な対象でもあり、家族の変化には常に大きな社会的関心が寄せられてきた。現在の日本の家族は大きな転換期を迎えている。少子化、高齢化、晩婚化、雇用機会均等、格差拡大など現在の日本社会を特徴づける多くの現象は家族に関係する。本授業では、家族に関係するさまざまな現象を読み解き、分析するための社会学的視点を講義する。日本の家族の姿について、統計データから浮かび上がる特徴、歴史的な変化の中での位置づけ、国際比較から見た共通性とユニークさについて知識を深めることができるように授業を構成する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目	社会運動・ボランティア論	近代以降、人々は「社会問題」を発見し、その問題を解決するためのさまざまな営為が行なわれ、それらは「社会運動」や「ボランティア」と呼ばれるようになった。本授業では、近現代日本、とくに戦後日本の社会運動やボランティアの歴史を取り上げ、両者の違いよりも共通性に着目しながら、「社会を変える」ことを目指したさまざまな取り組みの概要や特徴を学ぶ。そのことにより、現代の社会運動やボランティアを社会科学的に認識・考察するための基本的視座を獲得することを目的とする。	
		子どもと教育の社会学	生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置づけている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。本授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。	
		国際社会学	本授業では、グローバル化する世界で人間・情報・物資・資本の国境を越えた移動が激しさを増す中で巻き起こるいくつかの問題について学び、私たちにはその問題に取り組むために何ができるのかを考え、行動する（あるいはその行動の準備をする）ことを目指す。グローバル化に関わる諸課題の中でもとくに以下の3つの論点を本授業では取り上げる。1) 南北格差はなぜ生じるのか。それによっておこる諸問題に北側の市民は何ができるのか。2) 人の国際移動はどのように起こるのか。日本はそこにどう関わってきたのか。3) 開発とは何か、私たちはどのように関与することができるのか。	
		臨床心理学	複雑な世の中にある昨今において、悩みや不安を抱えることが多くなる。そのような中で、他者を支援するものに臨床心理学という学問がある。臨床心理学とは、実際にどのような学問なのだろうか。また、複雑化された現代にあっては、人と人との関わりはますます重要になってくるように思われる。このような中で臨床心理学の知識や技法は他者と関わる際に私たちにヒントを与えてくれる。本授業では臨床心理学の基礎知識をもとに、さまざまな臨床心理における技法を実際に行いながら、臨床心理学の基礎的な理論およびその具体的な基礎技法の習得を目的とする。	
		地域スポーツ論	現代社会における地域には、人口減少や少子高齢化、地域コミュニティの希薄化など喫緊に対応が必要である問題が山積している。これらの課題の解決策の一つとして期待されているのがスポーツの持つチカラである。地域住民がスポーツに関わることで得られる個人的な効用はもとより、地域の活性化や人々のつながりなど地域社会全体へ与える効用が期待されている。本授業では、このような相互の関係性を持つ地域とスポーツに焦点を当てる。具体的には、スポーツ推進のための地域の課題や、地域の問題を解決するためのスポーツの役割などを概説し、地域とスポーツについての理解を深める。そして、その理解をもとに地域における一般的な課題やスポーツの課題を解決するためのスポーツの活用策を考察する力を養うことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	社会調査士関連科目	社会調査入門	本授業は、社会調査全般に関する基本事項について学習するものである。授業では社会調査の意義やその歴史、および調査倫理についての解説とともに、さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究についての解説を行う。これらの内容とおして、受講生は種々の調査におけるデータの収集から分析までのプロセス、その特徴と相違点について理解し、社会調査の全体的な知識と倫理観を身に付ける。こうした過程を経て、調査する側として必要となる基本事項とともに、社会で氾濫するデータに翻弄されないための調査リテラシーの土台を獲得することが本授業の狙いである。	
		社会調査法	ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。本授業では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析しうる形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例を取り上げつつ解説していく。	
		基礎統計学	本授業では、計量的なデータを読み解くための基礎知識と技法について学習する。具体的には単純集計、クロス集計、ヒストグラムなどの作成方法、平均値、分散などの基礎統計量の意味と算出方法、2変数間の関係の記述方法（クロス表、平均値の差、相関係数など）、相関関係と因果関係の違い・疑似相関について学習する。また、各種統計資料の整理方法についても併せて学習する。以上の作業を通して、統計的なデータを適切に処理し、その結果から諸傾向を読み取ることのできる能力を身に付けることを目標とする。	
		社会統計学	計量的データを用いた分析は、統計学的な裏づけによって支えられている。本授業は、計量的な調査データを用いた実証研究に必要な統計的知識を学ぶものである。具体的に取り上げる内容は変数の種類、代表値（平均値、分散、標準偏差など）、相関係数、回帰分析、確率変数、確率分布、正規分布、t分布、 χ^2 分布、母平均・母分散の推定、帰無仮説、平均の差の検定、相関係数の検定、独立性の検定などで、これらを体系的に習得することが本授業の目的である。	
		多変量解析法	量的な社会調査データの分析で用いる多変量解析法について、基本的な考え方と利用方法を説明し、具体的なデータ分析を行う。まず、多様な社会調査データに対応して発展してきた多変量解析法について全体像を紹介する。次に、2変数の関係に第3の変数を加えた場合の3変数間の関係性について、3次元のクロス表と2元配置分散分析が理解できるよう丁寧に説明する。そして最もスタンダードな手法として、主成分分析と因子分析、重回帰分析とロジスティック回帰分析が利用できるように学習する。分析手法と分析結果について、平易な日本語で説明できるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	社会調査士関連科目	質的調査法	社会調査は量的調査と質的調査に分類される。本授業は、そのうち質的調査を取り上げ、さまざまな質的データの収集や分析方法について学ぶ。参与観察法やインタビュー調査などの質的調査の方法を学び、経験するとともに、会話分析、ドキュメント分析、グラウンデッドセオリーといった質的データの分析法を学び、経験する。さらに、アクティヴ・インタビューやライフストーリーの考え方を理解し、質的なデータとはどういったものなのかを考える。	
		社会調査実習Ⅰ（量的）	本授業は量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成を行う。その後、各自の仮説をもとにデータ分析を行い、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、目標である。本授業は「社会調査実習Ⅱ（量的）」をあわせて受講することを想定している。このうち本授業では、各自の関心に基づいて仮説を設定し、調査票・コードブックを完成させるまでの作業が中心になる。	
		社会調査実習Ⅰ（質的）	地域活動に関する社会調査の企画と実施、分析を通じ、地域活動の現状や地域の現場で課題となっていることを理解し、それらを調べる社会調査能力を身に付けることを目的とする。そのために、調査企画から報告書作成までにまたがる社会調査の全過程について、①文献・資料調査、②対象地域の視察、③インタビュー調査、④調査報告書作成という体験を通じて学習を進める。中核となる調査は、現地視察やインタビュー調査といった質的調査とする。本授業では、調査の企画からインタビュー調査の実施までを行う。	
		社会調査実習Ⅱ（量的）	本授業は、量的な社会調査の企画から報告書作成までの全過程を経験し、社会調査を実施する際に必要となる知識・技能を学習するものである。受講生は、各自の関心に基づいた仮説を設定して質問項目を考え、質問項目をまとめて調査票を構成し、データの収集とデータセットの作成を行う。その後、各自の仮説をもとにデータ分析を行い、分析結果を報告書にまとめる。以上の作業を経験して受講生が独力で社会調査を実施できるようになることが、目標である。本授業は「社会調査実習Ⅰ（量的）」をあわせて受講することを想定している。このうち本授業では、調査票の配布・回収、データセットの作成、データ分析、報告書の執筆といった作業が中心になる。	
		社会調査実習Ⅱ（質的）	地域活動に関する社会調査の企画と実施、分析を通じ、地域活動の現状や地域の現場で課題となっていることを理解し、それらを調べる社会調査能力を身に付けることを目的とする。そのために、調査企画から報告書作成までにまたがる社会調査の全過程について、①文献・資料調査、②対象地域の視察、③インタビュー調査、④調査報告書作成という体験を通じて学習を進める。中核となる調査は、現地視察やインタビュー調査といった質的調査とする。本授業では、調査データの分析と報告書の執筆を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	F A L 科 目	FAL 入門	フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) の入門科目として、地域や企業など、さまざまなフィールドの現状と課題、またフィールドにおける活動に取り組むにあたっての心構えと具体的な手法を実践的に学ぶ。授業では、個人 (パーソナルプロジェクト) およびグループ (グループプロジェクト) の立場で身のまわりの生活を見つめ直し、課題の抽出、アクションプランの作成および実践に取り組み、その学びを整理、発表する。これらの学びを通じて、受講生は、社会的実践 (ソーシャルプロジェクト) に「じぶんごと」として取り組むにあたっての知識、技能、思考、態度を身に付けることが期待される。	共同
		FAL 実践	フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) の実践科目として、地域社会の現場で活躍する主体との交流を通じた「提案力」および「修正力」の獲得を目指す。本授業では、企業、地方公共団体、公益法人など、地域社会の現場で活躍する人々から社会 (地域) が抱える課題について話題提供を受けたのち、①課題の発見、②アクションプランづくり、③プレゼンテーション、④話題提供者からのフィードバック、⑤フィードバックを踏まえたプランの修正、⑥プレゼンテーションとフィードバック、⑦グループワークに対する振り返り、を各グループ 2 つのテーマ (課題) について実施する。これらの学びを通じて、受講生は、社会的な課題を「じぶんごと」として理解するとともに、その解決策を立案、適宜修正し、実践していくために必要な知識、技能、思考、態度を身に付けることが期待される。	
		FAL 演習 I	主に 1 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人などと協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくに本授業は、フィールド型アクティブ・ラーニングにはじめて取り組む学生を対象とし、協働的実践の基本、連携先との関わり方、成果のまとめ方、プレゼンテーションの方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材としての基礎を身に付けることが期待される。	
		FAL 演習 II	主に 2 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人などと協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくに本授業は、専門基礎科目などの履修により社会との関わり方、社会学の基本的な考え方を身に付けた学生を対象とし、課題に対する多角的な視点、解決に向けた多様なアプローチなどについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を自分なりに理解することが期待される。	
		FAL 演習 III	主に 3 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人などと協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくに本授業は、専門展開科目などの履修により一定以上の学術的知見を有する学生を対象とし、その知見を用いた課題の分析、実現可能な解決策の提案方法などについて、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を理解し、その一部を身に付けることが期待される。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	FAL科目	FAL 演習IV	主に 4 年次の学生向けに開講するフィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) 科目で、企業、地方自治体、公益法人などと協働し、連携先が抱える課題の解決に向けた活動に取り組む。とくに本授業は、現代社会学部における学修により、一定以上の学術的知見と地域社会での実践経験を有する学生を対象に FAL 科目の集大成として開講するもので、連携先が抱える課題の発見から解決、活動の振り返りに至るプロセスへの主体的な参画方法について、実践を通じて学ぶ。この授業を通じて受講生は、地域社会で活躍し、その牽引役となる人材として必要な資質を理解し、それを身に付けることが期待される。	
	展開科目	社会構造変動史	人類が直面する「グローバル・イシュー (global issue)」、およびそれを克服し得る共生社会の創造の可能性を、人類史の視座から根底的 (radical) に考察する。前半では、人類社会とそこで生じた諸問題の史的変遷、およびそれらを貫く内在論理を考察する。後半では、各時期の「グローバル・イシュー」の克服に向けて意識的または無意識的に生活・行為している越境的な主体による社会形成の歴史と現状を考察する。歴史を踏まえ、現代の人類社会における解決課題を再考し、未来社会の創造の可能性を探る。	
		日常生活世界論	<p>(概要) 現代社会の諸問題や文化などを考えていくうえで、社会学学習者が理解しておくべき重要な世界がある。それが「日常生活世界」である。普段私たちがほぼ意識することなくあたりまえに暮らしている日常の中にこそ、社会や他者との繋がり、文化などさまざまなテーマを考えることができるカギが満ちている。この「日常生活世界」をわれわれはどのような切り口で、どのように捉え、読み解くことができるだろうか。本授業では、前半で「常民」「世相」「民衆史」など日本民俗学の知見や「考現学」という営みもつ意味などを紹介したうえで、A. シュッツの日常生活世界論を説明し、現代社会学の最先端であるエスノメソドロロジーにつないでいく。後半では、H. ガーフィンケルと H. サックスが創始した「エスノメソドロロジー」に関して、その知的源泉を「現象学」や「日常性の哲学」、および言語学における「日常言語学派」などに求めたうえで、古典的研究を例に説明する。さらに会話分析、相互行為分析、概念分析など最新の展開までも研究例の紹介を交えながら、分かりやすく解説する。受講生各自の問題関心をもとにフィールドワークを実践するうえで、必須の質的探究方法とその背後にある世界認識の方法を理解することが最終目的である。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(11 好井裕明／7 回)</p> <p>前半は講義を中心として授業を進める。適宜、必要な映像を視聴し解説する。その際、通常は、社会学者として扱われない「柳田國男」「色川大吉」「宮本常一」「今和次郎」らの探究実践のなかに、いかに「日常生活世界論」の観点からみて重要な実践が存在していたかを丁寧に解説する。また、理論的には、フッサールの「現象学」を A. シュッツが社会学化してくれた功績がいかに大きかったか、そして、その A. シュッツの達成がどのようにして H. ガーフィンケルに引き継がれ、エスノメソドロロジーに結実していったのかという点にも言及する。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開科目	日常生活世界論	(4 榎田美雄/8回) 後半は日常生活研究を 2 種類に分けて、体験学習とディスカッションを主軸にすえて、講義によるガイドもしながらエスノメソドロジー・会話分析の学的発見の追体験をする。後半の前半では、会話や出会いという「普通の日常生活研究」から、会話における「順番取得システム」や「視線による聞き手性の表示」のような普遍性のある秩序を学ぶ。後半の後半では、救急電話場面やインフォームド・コンセントのような「制度的場面における日常生活研究」から、専門分化した制度的場面ごとに相互行為の違ったパターンがあること、そして、そのように専門分化した諸世界の統合体として、現代の「日常世界」が存在していることを学ぶ。さらに講義部分では、これらの知見が、現代哲学や現代言語学の展開と相即的なものであることも概説する。	オムニバス方式
		ソーシャルイノベーション科目群	地域社会形成論	地域社会の現状・問題・将来像について考えるために、現在の地域社会(地域コミュニティ)の原型をたどりながら、地域社会の成りたちについて時間軸(歴史)、空間軸(範域)、社会軸(担い手)によって把握・理解する。それを手がかりに、現代における日本社会・地方社会について考えていく。社会調査やフィールドワークなどで地域に入る場合の専門知識、地域社会を研究対象とする場合の歴史的・空間的視座を獲得し、地域社会を捉えるうえでのミスリードを防ぎ、社会的・学術的に意味のある学問知の発信に結びつけられるようにする。
	人間環境の社会学	現在、人類は自ら創出した科学技術の「生産力=破壊力」、およびそれを前提とした社会構造により、人類自身の「生命-生活(life)」の存続をも危機に陥れつつある。核汚染や自然環境破壊、ヒトゲノムへの技術的介入、社会の分裂・対立・疎外はいずれも、その具体的な現れと言えよう。本授業は、自然と社会の双方を視野に収め、これを人間が生きる/創造する「環境」としてトータルに把握し、現在の人類が直面している危機、およびそれを克服する人間の主体性の在り方を「根底的(radical)」に考察する。		
	階層構造変動史	本授業は、20世紀初頭から約1世紀にわたる日本の階層変動を、ライフコース研究の視点から読み解くことを目的とする。近代国家は地位の平等化を推し進めるが、ある程度の格差を正当化してきた。またかつて正当とみなされた格差が時代を経て不公正と批判の対象となる場合も多い。本授業では、出生年の異なる人々の性別、出身階層、学歴に注目して、人々が年齢とともに辿る職業経歴と家族経歴にどのような時代的影響があるかを明らかにする。とくに戦時体制、高度成長期、失われた10年といった時代状況の下で生じた男女の地位と経歴の変化を説明する。数量的な研究結果に加えて、事例としてライフヒストリーを用いるが、身近な父母や祖父母、知人のライフヒストリーを長期的な時代の変化の中に位置づける視点を学ぶ。		
	自然と科学の社会学	科学や技術の社会的な在り方を考え、それに伴う工業技術や農業技術の在り方を検討していく。原爆開発をしたマンハッタン計画や人体実験を実施したとされる731部隊などを素材に戦争と科学の関連や、公害や気候危機などの地球規模の環境問題をめぐる「科学論争」も視野に入れていく。さらに、近代の自然観の在り方とその問題点を考察し、オルターナティブとしての新たな自然観を提唱する。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	展開科目	ソーシャルイノベーション科目群	エスニシティ論	国境を越えた人に移動が進行する中で多様な文化背景を持つ人々が私たちの社会に参画している。少数者＝マイノリティを周縁化せずに、マジョリティとは異なる視点を可視化、言語化することで社会資源とすることはできるのか。主にアメリカ・カナダ・日本などを中心に多文化化の歴史を追い、現代の政策とその諸問題について理解し、私たちに何ができるのか考え行動する（あるいはその準備をする）。障害者問題、女性問題、そして外国人問題というようにあたかも問題はマイノリティ側にあるような「問題化」ではなく、障害者の参画の難しい社会、男女間の格差是正を拒む社会、通名を使い外国にルーツも持つことを隠さざるを得ない社会をいかに変えていくことができるのかという視点を持つことを求める。	
			教育の歴史社会学	誰もが経験してきた「教育」は、歴史的にどのように変容しながら現在に至っているのだろうか。本授業の目的は、人類史における教育の発生の意味から、現代の学校教育が抱える問題まで通時的に学んでいくことを通して、歴史社会的視点から教育事象を把握できる力を身に付けることである。とりわけ、近代以降に全世界的に広がった近代学校システムがもたらした社会的影響力に注目し、近現代日本において「周縁の学校」（夜間中学やフリースクールなど）の事例に焦点を当てながら、社会の中で学校が持つ意味や機能の変化を学ぶ。	
			政治文化の社会学	選挙は、地域住民のつながり方を如実に示す。とくに地方議会議員選挙では、それを実感することもあるだろう。誰もが賛成しそうな内容の公約やマニフェストを掲げていても落選する候補者もいれば、議場で居眠りをしている姿が度々映しだされても当選する候補者もいる。何故だろうか。その背景にあるのが政治文化である。日本のジェンダーギャップ指数の低さも、その現われであると捉えることもできる。政治文化を捉えることによって、日本社会の在り方と未来について考えていく。政治文化を捉えるには、さまざまな方法論がある。その方法論とこれまでの政治文化論を手がかりに、現代日本における地域社会の担い手の今後を具体的に模索する。	
			SDGs と国際社会	本授業では SDG s のさまざまな目標を取り上げ、関連する用語や概念の解説を行い、日本を含めた世界の目標の達成状況を説明する。また、なぜ持続可能な社会の構築に取り組まなければならないかを個人（消費者）または企業（生産者）の立場から解説も行う。これにより、受講生は SDG s の掲げる各目標を理解し、現在の世界の企業や社会での取り組みを説明でき、今後の社会で必要となる更なる対策を論理的に思考できることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開科目	ライフデザイン科目群		
		生涯スポーツ論	人とスポーツの関わりは多面的であり、単に「する」ことだけに留まらず、「みる」ことは人々の生活に欠かすことのできない楽しみの一つとなり、スポーツ大会やイベントを「ささえる」ことや興味・関心のあるスポーツについて「しらべる」こと、スポーツの魅力や面白さを「つたえる」ことも大切な関わり方の一つである。本授業では、現代におけるスポーツの新たな価値を多角的に捉え、さまざまな楽しみ方や関わり方があることを見ながら、子どもから大人まで生涯にわたって「いつでも・どこでも・いつまでも」スポーツに関わることのできるような豊かな生涯スポーツ社会を実現するために必要な基礎知識を身に付けるとともに、人々のスポーツライフを支援する能動的な姿勢を養うことを目的とする。	
		思春期・若者論	多様な現代にあって、人の生き方もさまざまと言われながらも、どこか“生きにくさ”を感じることはないだろうか。この生きにくさは果たして何であろうか。「若者」や「大人」が抱える生きにくさの問題とは何か。本授業では、主に「若者」を心理・社会学的視点から捉えた場合、どのような諸問題があるかを考える。すなわち、「若者」が抱える心身の諸問題について考え、現代社会の生きにくさについて理解を深めること、そして、社会における自分自身について見つけ、自分の良さを発見していけることを目的とする。	
		犯罪・非行の社会学	辞書的な観点から理解すると、社会的に有害、あるいは危険である行為・現象を犯罪・非行として定義することができる。しかし、一面的な視点からだけでは、犯罪・非行の本質を理解することはできない。本授業では、社会との関わりに重点を置いて犯罪・非行現象にアプローチし、犯罪・非行を多面的に理解するとともに、犯罪・非行の取り扱い方／取り扱われ方を通して、私達の社会のあり様それ自体を考えていく。	
		仕事と暮らしの社会学	現代社会は、日々変化を遂げている人々の仕事と暮らしはその社会の中で営まれるためそうした変化と無関係ではなく、むしろ生じた問題への対応を常に模索しなければならない。こうしたことを念頭に置きつつ、本授業では展開科目として仕事と暮らしに関する現実的な問題、(単純な「正解」のない) 個々人の価値観に基づいた判断を要する問題を主に取り上げる。専門展開科目として講義では、基礎科目において学んだ内容を前提としつつ、当該分野の新たな研究成果なども織り交ぜながらより発展的な議論を展開する。それらを通して、受講生が自身の問題として仕事と暮らしのありようを考え、変わりゆく社会の中での自分の生き方を見定めていけるようになることが、本授業の狙いである。	
ジェロントロジー	ジェロントロジー（老年学）は、高齢社会において、重要性を増している学問分野である。本授業では、ジェロントロジーの基礎的な概念と現代の高齢社会の課題について学び、高齢者に対する理解を深めるとともに、自分の人生に対する備えを行っていけるようになることを目的とする。講義内容は、社会学、社会老年学を中心に、医学・生理学、心理学、社会福祉学、経済学の内容にも及ぶ。学際的な学問としてのジェロントロジーの幅広い分野を学び、社会に出て多様な分野で活かせる高齢社会についての知識を身に付ける。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	展開科目	ライフデザイン科目群	都市住宅論	都市を生きるすべての人々は、よりよい人生をあゆむために、適切な住まいを必要とする。誰が、誰のために、どのような住宅を、どのようにつくるのかは、挑戦する価値のある重要な問いである。本授業では、都市住宅の在り方を展望するために、まず、住空間に関する思想・実践の歴史をみたくえて、住宅政策、住宅市場、住宅法制などが構成する住宅システムの展開の軌跡を説明し、現代都市における人生の道筋の多様さと住まいの関係を理解するために、若者、女性、高齢者のライフコース変化とその住宅条件を調べ、さらに、住宅困窮者のための住宅セーフティネットの実態と論点を講述する。最後に、住まいの課題が新規建設からストック再生に移ったことを述べ、その政策形成と実践について検討する。	
		観光地域福祉論	少子高齢化の進展による担い手不足、住民ニーズの多様化・複雑化と財政格差、地域経済の停滞など、さまざまな課題を抱える地域において、その活性化の柱として期待される「観光」と、多様性の時代の中で多くの生きづらさを抱える人々を支える「福祉」の概念に着目し、これからの地域の在り方について考える。本授業では、地域、観光、福祉の基礎的概念とともに、地域という場の中で観光と福祉がどのように関わり合うかについて検討し、受講生一人ひとりが、人々の豊かな暮らしをデザインしていくための具体的な方法を描く機会を創出する。		
		ヘルスプロモーション論	ヘルスプロモーションとは、人々が自らの健康をコントロールし改善できるようにするプロセスで、健康の保持増進は個人の努力（自助）だけで獲得されるものではなく、家族や友人、地域やコミュニティといった周囲の人々による共助、そして市町村などの自治体による公助によって一人ひとりの生活や健康状態などに対応して図られなければならない。本授業では、このようなヘルスプロモーションや Quality of Life (QOL) の考えをもとに、各ライフステージの健康に関わる今日的課題について解説するとともに、わが国の保健施策について理解を深める。		
	メディアコミュニケーション科目群	ビデオ・エスノグラフィ	エスノメソドロジーは、1960年代の米国西海岸に始源を持つ社会学の一潮流である。それは、人々の相互行為を会話や動作の連続体（シークエンス＝連鎖、が定訳＝）であると見なして詳細に検討する学問であり、録音録画機を用いた「会話分析」との組み合わせによって大きく発展した。現在では、医学・看護学・教育学・工学らの諸学問と連携して、大きな成果を上げている。本授業は、この新しい学問を精密化する方向に発展させた方法としての「ビデオ・エスノグラフィ」を講じるとともに演習していく。「ビデオ・エスノグラフィ」は、人々からの聞き取りや資料探索によって得たエスノグラフィックなデータを基盤とした上で、そこにビデオデータの会話分析的解明によって得られた知見を組み合わせることで、エスノメソドロジーの一層の発展を図ろうとする方法である。この「ビデオ・エスノグラフィ」の総合的教示と実践的訓練が本授業の目的である。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開科目	メディアコミュニケーション科目群	司法・犯罪心理学	
		地域メディア論	今日、人口減少と高齢化が進む日本の各地域では、移住・定住者の受入、関係人口の創出・拡大が大きな課題となっている。そのために必要なのが、教育環境、社会インフラの維持とともに、地域の情報（魅力）を地域の内外に発信して地域を活性化するとともに、地域の記憶と記録を地域コミュニティに伝えて継承していく地域メディアの維持である。多くの地域では、地方紙・地域紙は購読部数を減らして宅配網の維持が難しくなり、地方出版社・書店が数多く廃業し、自治体が運営する図書館、博物館も十分な予算が確保されずに運営を廃止するところも出ている。またコミュニティ FM、CATV 局も、経済的に厳しい状態に置かれ、地域を盛り上げる役割を果たせていないところも多い。ただ地域メディアがなくなると地域の衰退は加速化し、移住・定住、関係人口の確保もより困難になる。そして大規模災害に際し、地域の情報のハブとなる地域メディアが存在しないと、被災した人に必要な情報を伝える災害対応も難しくなる。本授業では、持続可能な地域社会に向けて、地域メディアが果たす役割や抱えている課題について、全国各地の事例をもとに、これからの地域メディアの存続に必要な要件について考えることを目的とする。	
		差別の社会学	現代日本社会においては、男性同性愛、女性同性愛、トランスジェンダーなど性的マイノリティの問題、障害者問題、ジェンダーに関わる差別、在日朝鮮人問題、在日外国人問題、部落差別問題、外見による差別や排除など、さまざまな差別問題が起きている。本授業では、まず社会学的発想のもとで、差別とはどのような現象であり、どのように定義され、どのように現象自体を解読し分析できるのかを、現象学的社会学やエスノメソドロジーという現代社会学の最先端を用いて講義する。その後、個別の差別問題についても講義しながら現状を説明し、差別を考えることが他者理解であり、他者理解がいかに困難であるのかを実感しつつも他者と繋がり続けようとする営みの中にこそ「差別を考える文化」創造の契機があり、私たち自身もつ「差別する可能性」と向き合えることができることを考えていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	展開科目	メディアコミュニケーション科目群	身体とコミュニケーション	
		身体とコミュニケーション	いつ・どこで・どんな人が・どのようにメッセージを伝えるかによって、受け手へのその伝わり方は異なることがあるように、非言語の諸要素はコミュニケーションの基盤として位置づけられうる。本授業では、非言語の中でも身体に注目し、さまざまな角度からコミュニケーションにおけるその働きや、その性質ゆえに生じる諸問題について学習する。具体的には、自己にとっての身体の意義にはじまり、身体それ自体あるいは身体装飾に向けられるまなざしとコミュニケーションにおける意味、ジェスチャや視線、他者との距離や接触などといった動的身体の諸相について学ぶ。また、身体およびその動きは、意図せずあるいは不本意に解釈されたり、意識として働いたりする性質ももつということの理解も重要である。さまざまな事例に基づくこれらの学びによって、コミュニケーションに見出せる身体の客体性(社会性)および主体性を理解することを目的としている。	
		広報メディア論	本授業は、国家や地方自治体が主体となっていくメディア・コミュニケーションに焦点を当て、その手法、メッセージ、効果を批判的に考察していく。具体的には、「広報文化外交(Public Diplomacy)」としてアメリカが日本に対して行った戦後の数々の施策と、現代日本における官公庁・自治体による「広報(Public Relations, Publicity)」を事例として扱う。萌えキャラ、ゆるキャラというポピュラー文化を使用した脱政治的広報や bot も使用した SNS 上の広報も考察対象とする。米国立公文書館の機密解除文書も使用しながら、学生とのディスカッションや Q&A を行うアクティブな講義とする。	
映画を読み解く社会学	映画は大衆娯楽であり芸術としてもすでに長い歴史がある。社会学においても自らの議論に利用することも多いが、それらはあくまで議論への色付けであり“添え物”として「外から」の映画利用である。そうではなく映画それ自体を「内から」読み解く可能性を本授業では追求する。映画それ自体に焦点を当て、そこで展開される相互行為や人間関係、言葉のやり取りやカテゴリー化の様相などが映画の世界の中でどのような意味をもっているのかを解説する「内から」映画を読み解く社会学の可能性である。映画は確かに娯楽であり芸術だが、同時にさまざまな文化や問題への社会的想像力を鍛えることができる源泉である。映画は個人、他者、状況、関係、多様な社会問題を考えることができる魅力あふれる手がかりを与えてくれる。こうした社会的な映画体験は、常識的規範や世界理解を確認するだけの冗長で退屈な社会学テキストや専門書を何冊読んでも得られない驚きや直観、センスが得られる。本授業では、受講生各自が自らの問題関心に響き合うこうした社会的想像力、直感、センスを獲得することを目指す。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	展開科目	メディアコミュニケーション科目群	ジャーナリズム論	ジャーナリズムの「機能・役割」と「責任」「言論・表現の自由」がどのような変遷と遂げ、現代社会において意味を持つのか、そのジャーナリズムの活動やその思想などを事例も用いながら学ぶ。これまで新聞・出版・放送といったマスメディアが情報の流通を独占していた時代から、インターネットの普及により個による情報発信が可能な時代へとメディアと社会の関係の大きな変化や、インターネットを取り巻くデバイスやツールの変化だけではなく、社会状況の変化により情報が増大し、そこに流通する情報の真偽や信ぴょう性を読み解く重要性について考察する。現代社会におけるジャーナリズムの状況と課題を多面的に捉え整理することにより、新たなジャーナリズムの在り方と情報リテラシーについて実践的に身に付けることを目的とする。	
		演習・卒業研究	初年次ゼミ	「初年次ゼミ」「初年次演習」は、大学での学びのガイダンスとして (A) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキル、(B) 大学生活での基本方針と目標の設定、(C) 自身の考えを表現する技法、(D) さまざまな日常の問題に関心を持ち研究していく態度、(E) 研究倫理といった諸点について基本的なトレーニングを行うものである。これらを通して受講生が、摂南大学現代社会学部の学生として学びに対する十分な姿勢をもてるようになることが授業の狙いである。「初年次ゼミ」では、上記のうち (A)～(C) に関わる内容が扱われる。それらによって、大学での学びを軌道に乗せ、「生徒」ではなく大学での学びを自ら進められる「学生」としての態度を身に付けることが目標となる。	
	初年次演習		「初年次ゼミ」「初年次演習」は、大学での学びのガイダンスとして (A) 大学での学習に必要な基礎的能力・スキル、(B) 大学生活での基本方針と目標の設定、(C) 自身の考えを表現する技法、(D) さまざまな日常の問題に関心を持ち研究していく態度、(E) 研究倫理といった諸点について基本的なトレーニングを行うものである。これらを通して受講生が、摂南大学現代社会学部の学生として学びに対する十分な姿勢をもてるようになることが本授業の狙いである。「初年次演習」では、上記のうち (D) (E) に関わる内容が扱われる。それらによって、「現代社会学部の学生」としての態度を身に付けることが目標となる。		
	基礎演習 I		本演習は、現代社会学部での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるまえの、導入的かつ基礎的な演習の授業として、2つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、高大接続の完成ということであり、旧来の高校的な受け身の学習姿勢から、大学的な積極的で主体的な学習姿勢への転換を、教員との人格的ふれあいで行う。二つ目の目標は、FAL (フィールド型アクティブ・ラーニング) で先鋭化させつつある問題意識を、自分ごとの問題として選択的に引き受けることができるようになるということであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標の達成を行う。授業では文献輪読、研究ゼミ発表とディスカッション、データ分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	演習・卒業研究	基礎演習Ⅱ	本演習は、現代社会学科での卒業論文に向けた専門的な学修を進めるための、導入的かつ基礎的な演習の授業として、2つの目標を達成するために実施される。一つ目の目標は、高大接続の最終的完成ということであり、旧来の高校的な受け身の学習姿勢から、大学的な積極的で主体的な学習姿勢への転換を、教員との人格的ふれあひの下で行う。二つ目の目標は、FAL（フィールド型アクティブ・ラーニング）で先鋭化させつつある問題意識を、自分ごとの問題として選択的に引き受けることができるようになったことを前提に、卒業論文のテーマの絞り込みに進むということであり、ゼミ仲間との相互的な影響関係を深めながらの学修によって、この目標の達成を行う。授業では文献輪読、研究ゼミ発表とディスカッション、データ分析などのさまざまな方法を取り入れつつ学修を進める。	
		専門演習Ⅰ	本演習は、現代社会学科での専門的な学修を進めるために、それぞれの指導教員のもとで、学生の具体的な研究課題の探究を社会的な考え方に則ってできるように訓練する。ついで、それぞれの指導教員が選んだ文献の読解を共同的に行うことで、社会的現実に対して、複数人の意見の違いを活用する形で対峙できるよう鍛錬する。また、この鍛錬の中で社会的想像力の用い方を体得させる。さらに、これらに加えて、社会学的研究法に関して、データの集計と分析、または、フィールドワークの実行と取りまとめなどの諸手法を用いた実践を行うことで、諸手法に習熟させることも目的のひとつとする。	
		専門演習Ⅱ	本演習は、現代社会学科での専門的な学修を高度化するために、それぞれの指導教員のもとで、前期に目星をつけた個別の学生の具体的な研究課題の探究にどのような調査や思考法が適切かを絞り込んでいき、その絞り込んだ内容にそって、学生の準備を進めさせることを目的とする。そのために、共同的な探究課題を設定したゼミ調査またはゼミ研究を遂行する。これらを通して、卒業研究で取り組む課題に対応する力を総合的に育成する。	
		卒業研究Ⅰ	「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」では現代社会のさまざまな事象を研究対象としてとらえ、これまでに学修した専門的知識や技能を用いて自ら探究した研究成果を卒業研究要旨に表現することを目的としている。「卒業研究Ⅰ」では研究の遂行に必要な資料や参考文献などを収集するとともに研究計画を立案するだけでなく、必要に応じてフィールド調査や実験などを実施してデータを収集し、得られた知見から卒業研究中間報告（プレゼンテーション）を行う。	
		卒業研究Ⅱ	「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」では現代社会のさまざまな事象を研究対象としてとらえ、これまでに学修した専門的知識や技能を用いて自ら探究した研究成果を卒業研究要旨に表現することを目的としている。「卒業研究Ⅱ」では、「卒業研究Ⅰ」で作成した卒業研究中間報告をもとに必要なに応じて追加調査や再実験、再分析を行い、資料や参考文献などを活用して客観的かつ論理的な卒業研究要旨を作成し、併せて卒業研究発表（プレゼンテーション）を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学系	日本の歴史	歴史学は人々の営為をさまざまな角度から検証する学問である。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえる。政治、経済、宗教、生活、文化などさまざまな要素が、「時間」の流れの中で互に関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがある。本授業では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とする。日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養う。	
		世界の歴史	本授業では、ヨーロッパの歴史を通じて、過去と現在の変化や諸地域における差異を検討し、現代世界の成り立ちを知るとともに、歴史を通じて現代社会の諸問題に対する批判的なまなざしを涵養することを目指す。そのために、ヨーロッパ史の基礎的な知識を習得し、時代や地域の特徴と、現代社会の形成の過程を理解することを目的とする。ヨーロッパの歴史の重要な特徴を説明でき、それを活かして現代社会の問題について能動的に考えることができるようにする。	
		心理学 I	心理学とは、われわれが周囲のさまざまな環境との関わりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。本授業では、人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。とくに「心理学 I」では、個人に焦点を当て、かつ社会的現実と対比した日常での問題を取り上げ人間の理解を目指す。	
		心理学 II	心理学とは、われわれが周囲のさまざまな環境との関わりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。本授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。とくに「心理学 II」では、日常での問題を多く取り上げ現実社会における対人間、集団関係でおこる心理状況の理解を目指す。	
		哲学 I	私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」「他者とは何か」「幸せとは何か」など、人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。本授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのために本授業では、西洋哲学の諸思想を通して人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み、さらに現代という時代を生きる私たち自身の在り方について考察していく。	
		哲学 II	人間は古来から、その時代や地域に固有な仕方でもって思索による探究を行ってきた。現代を生きるわれわれの生き方も、その探究活動に多大な影響を受けている。本授業の第一部（第 1-10 回）では、人間の思索活動の歴史の諸相を「宿命」を「選択」に変化させる傾向」という観点から振り返る。第二部（第 11-15 回）では、とくに 20 世紀の哲学者 M・ハイデガーに焦点を当て、近代以降の時代状況「宿命」を「選択」に変化させる手段そのものが、新たな「宿命」となる」という観点から追う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学系	人文地理学	窓の外にひろがる風景、大学が立地する町並み、人々が抱くイメージなど。これらをどのように捉えることができるのか、また、どのように捉えてきたのか。それが本授業のテーマである。言い換えると、本授業は地理学史の流れに沿いながら、＜地理学的なものの見方・考え方＞について幅広く解説するものである。この見方・考え方は、意識されていない場合も多いが、実はわたしたちの生活のさまざまなところに活用されている。本授業を通して、身近な問題を新たな視点から捉え直すきっかけを提供していく。	
		地誌学	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野で、系統地理学(人文地理学・自然地理学)とともに地理学の根幹を成す。本授業では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。地誌学の基本的な考え方について具体的な事例を通して理解できるようになり、さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身に付けることを目標とする。	
		文学から学ぶ	日本の近代文学の短編を読む。なお、明治から敗戦までの作品を近代文学と位置づける。文学作品を読むことは、それだけでわれわれの心を豊かにしてくれる。作品を読むことで、近代の日本人が何を考え、発見し、何に悩んでいたのか、共に考えていく。文学作品への抵抗をなくし、作品を読んで考える習慣を身に付けることを目的とする。毎回、1編の短編作品を取り上げて講義し、作品を鑑賞する中で、その文学的特徴を説明できるようになることを目指す。	
	社会科学系	法学入門	法は私たちの日常生活と密接な関係にあり、私たちが普段あまり意識しないで行動をしても、その行為の裏には法律関係若しくは法律問題のあるものが沢山ある。法を学ぶことは世の中を知ることにもつながる。本授業では、法学の基礎から始め、身近な具体的事例を取り上げ、民法、商法、刑事法、民事訴訟法などの基礎を解説する。日常生活において必要、有益な法律の知識を得て、身近な法律問題を法的な立場から考えるようになることを目指す。	
		日本国憲法	日本国憲法の意義、および基礎的知識を修得することを目的とし、講義テーマに関連する憲法上の問題を取り上げ、これと関わりのある基本事項、判例、学説を解説・検討する。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とする。できるだけ身近な素材を利用し講義を進めることで、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会とする。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的に見る能力を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	社会科学系	日本の政治	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業の影響を避けて生きることはできない。それらを決定するのが政治であり、皆政治に参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができる。しかし逆に、政治に参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できない。本授業では、有権者である学生に日本の政治についての基本的な知識を与えることを目的とする。政治学の区分で言うところの政治体制論、政治過程論、日本政治史、国際政治、地方自治の内容について、日本の政治を概観していく。また、最近のニュースが理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説する。	
		経済学入門	経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、解説することを目的とする。戦後日本経済の歴史の大まかな流れや、雇用、企業組織、財政、社会保障といった日本経済の動きに関わる基本的な事項について説明でき、日々の経済ニュースを理解できるようになることを目指す。その上で、日本経済が抱える諸問題について、その重要性を理解し、異なる立場の議論を比較することができる力を身に付ける。	
		世界の政治	比較政治学の基礎的な議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における政治制度の問題に注目する。比較政治学の基本的な考え方や方法論に親しむことで、それらの観点からなされる「世界の政治」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになることを目指す。自らが暮らす現代社会の諸問題を、比較政治の視点から学生自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることを旨とする。	
		経営学入門	基本的な企業経営の仕組みについて講義する。資本主義社会における企業の役割を踏まえて、現代企業の経営活動を理解することを目標とする。本授業では、組織論・管理論・戦略論の基本的な用語と概念を学び、それらを用いて具体的な経営現象を説明していく。経営学の基本的な理論と概念を理解することで、国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験で出題される「経営学」を理解できる程度の知識を修得することを旨とする。	
	自然・科学技術系	公衆衛生学	私たちの健康が社会や環境から受ける影響について理解する。まず基礎編として、健康の観点からみた人類史に始まり、公衆衛生の歴史、日本の人口の現在と将来、人々の健康を守るための方法論（疫学）、予防医学の考え方とその具体例（感染症、生活習慣病）について学ぶ。また応用編として、人の健康が社会から受ける影響について移民（外国人）を事例に解説する。さらに人の健康に関する研究の倫理について、過去の歴史から学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	自然・科学技術系	自然地理学	自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっている。本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学ぶ。具体的には、1) プレート運動や気候といった地球規模のシステム、2) 日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、3) 自然災害や地球環境問題といった内容を扱う。授業では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする。授業を通して、自然現象をさまざまな時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身に付け、それを将来さまざまな形で活かしていくことを目標とする。	
		科学技術教養	さまざまな科学技術分野の基礎について学ぶ。広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、科学技術に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境の在り方を考える基本的な教養を身に付ける。分野は、建築・生命科学・都市環境・機械工学など多岐にわたる。	
英語系	基礎英語Ⅰa	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学修の技能と習慣を身に付けること、学内で提供されるさまざまな授業時間外の英語学修機会に親しむことを目的とする。		
	基礎英語Ⅱa	「基礎英語Ⅰa」での学修内容を踏まえ、比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学修の技能と習慣を身に付けること、学内で提供されるさまざまな授業時間外の英語学修機会に親しむことを目的とする。		
	実践英語Ⅰa	本授業は、TOEIC Bridge および TOEIC 受験対策を目的とする。日常生活、ビジネスシーンなどで使用される英語の基本語彙を学び、役立つ文法事項について確認をする。メール、広告、掲示物などから必要な情報を読み取る、さまざまなシチュエーションにおけるダイアログ、アナウンスメントを聞くなどにより、内容を把握する練習を行う。		
	実践英語Ⅱa	1年次に身に付けた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。「リスニング力」としては、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。「会話・ライティング力」としては、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身に付けるためのトレーニングを行う。		
	時事英語Ⅰ	英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。「時事英語Ⅰ」では、英語能力の到達度指標「CEFR-J」の『A1.2』に英語力が到達することを目標とする。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	英語系	時事英語Ⅱ	英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。「時事英語Ⅱ」では、英語能力の到達度指標「CEFR-J」の『A1.3』に英語力が到達することを目標とする。	
		英語基礎会話Ⅰ	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになることを目標とする。	
		英語基礎会話Ⅱ	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキングを身に付けることを目標とする。	
	外国語系	海外語学研修	本研修は、語学力（英語力）の向上と研修地の歴史・文化およびそこで生活する人々に触れ、国際的な知識と理解を深め、広範囲な国の人々と協力し合える国際感覚を身に付けることを目的とする。事前に研修先の歴史や文化を調査することで、現地での研修を深められるようにする。研修先では、月曜日から金曜日に講義・演習を実施し、語学力別に分けたクラスで行う。研修に参加する学生同士で協力し合い、研修の目標達成を目指す。	
	日本語系	日本語基礎	文章表現の基礎を修得し、日本語表現力を高めることを目的とする。大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。	
		日本語表現	文章表現の基礎を修得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。大学生活、就職活動、社会人生活で必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。	
	数理・情報系	数学基礎	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験もさまざまにわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済・社会学系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身に付けることをこの授業の目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	数理・情報系	データサイエンス基礎	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報・データを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。第一に、情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つことである。第二に、大学の ICT 環境を利用し、実践的課題を通してアプリケーションの機能の基本的な使い方を学び、それらの連携作業を実行できるよう演習形式で学ぶことである。第三に、データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を自主学習教材、授業内での解説や質疑応答を通して学ぶことである。この3つの目的を通して、今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること、データサイエンスのエントリーレベルの基礎的な知識が身に付くことを目標とする。	
		情報リテラシー	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報・データを取り扱うためのリテラシー能力養成を目的とし、さらにデータサイエンスに関する次ステップにつながる知識を有することを目標とする。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと、大学の ICT 環境を利用し、実践的課題を通してアプリケーションの機能の連携作業を確実にできるようにすることを演習形式で学ぶ。また、自主学習教材において毎日均等に少しずつデータサイエンスに関する基礎レベルの知識を学び、授業内では演習形式、質疑応答、解説を一連の流れとし、繰り返し学ぶ。データサイエンスの基礎的な知識を身に付けることで、今後の諸活動において活用が可能となる。	
キャリアデザイン系		キャリア基礎	就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。「基礎ゼミナール」と連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を修得する。専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを修得する。グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。社会の変化を知り、調べ、考え、発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。	
		キャリアデザイン	現代社会で生じているさまざまな事象を、氾濫する情報からの確に捉え、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考える。将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることを目指す。グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて行い、来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し学び、計画を実行に移せるようにする。	
		インターンシップ	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当することで、そこで働く人々がどのような考え方で働いているのか、とくに①仕事の社会における役割、②仕事の成果とは、③仕事の責任と充実感を直接肌で感じることである。事前学修として、ビジネス組織の在り方、マナーや常識を修得する。インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。事後学修も行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	イン 系 キ ャ リ ア デ ザ	ビジネス実務	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業などのビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業などのビジネス組織において積極的なビジネスコミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。	
	ス ポ ー ツ 系	スポーツ科学実習Ⅰ	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的とする。本授業では、スポーツ・身体運動を通して①健康の維持・増進を図る、②運動技能を向上させることができる、③マナーやルールを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことを目指す。	
		スポーツ科学実習Ⅱ	「スポーツ科学実習Ⅰ」で培った学修内容を応用し、心技体のさらなる向上を目標とする。①<心>スポーツ活動を通じた成功体験や規範遵守、主体性、自己統制、表現力、協調性、他者受容意識の向上など人間力の醸成を目指す。②<技>「スポーツ科学実習Ⅰ」よりも高度なスポーツ技術の獲得を目指す。③<体>運動やスポーツが身体へ及ぼす影響やそのメカニズムについて理解し、自らの生活行動の中にスポーツを実践できる能力の育成を目指す。	
	共 通 基 礎 系	大学教養入門	本授業は、大学生としての教養を身に付けるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術などを修得することである。本授業では、教養入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学修の習慣を身に付けるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力を身に付けることを目標とする。	
		大学教養実践	チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の特長を越えた教養実践授業である。「大学教養入門」のステップアップの講座としての位置づけである。大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身に付け、その知識をもとに協働学修により社会課題の解決を体験する。そして、知識としての教養を実社会での実践に結びつけることを目指す。	
		数的能力開発Ⅰ	社会に出るにあたり必要とされる数的能力を学修する。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われる。本授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう、社会人として必要となる数的能力を高めることを目的とする。自力で解く、教員による解説、類題を解くという流れで、段階的に実践問題に取り組む。さまざまな問題を確実に理解し、解ける力を身に付けていく。	
就職実践基礎		社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学修する。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものであり、大学時代から取り組むことが重要である。本授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学修していく。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	外国人留学生対象科目	日本事情 F I	年中行事やしきたりなど日常生活に見られる日本の伝統文化から、日本人の価値観や考え方について、体験もまじえながら考察する。日本の年中行事やしきたりについて理解を深め、考察したことや体験を通して学んだことを日本語で表現する力を身に付ける。日本文化・社会と自国の文化・社会および他国の文化・社会と比較考察し、さまざまなテーマについて日本語で自分の考えが表現できるようになることを目標とする。	
		日本事情 F II	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりする。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学ぶ。日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会および他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、さまざまなテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とする。映画についての情報・その他背景知識についてまず説明し、映画の場面をいくつか視聴する中で内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題を出し、テーマについてディスカッションをした後、「書く」練習を行う。	
		日本語読解 F I	さまざまな分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みが強くなることを目指す。各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。読んだ内容を要約し、口頭で説明する練習を行うことで、語彙力を向上させる。	
		日本語読解 F II	さまざまな分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みが強くなることを目指す。各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。読んだ内容を要約し、口頭で説明する練習を行う。語彙力を向上させ、専門分野の文章を読むための読解力の基礎を身に付ける。	
		日本語文法 F I	中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。各回、講義テーマを決め、教員による解説と練習を繰り返しながら進め、中上級～上級の文法項目が運用できるようになることを目標とする。	
		日本語文法 F II	中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。各回、講義テーマを決め、教員による解説と練習を繰り返しながら進め、高度な日本語運用能力を身に付けることを目標とする。	
		日本語表現作文 F I	レポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身に付けることを目指す。レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。①レポート・論文の文体で書ける、②読んだ内容を要約できる、③段落分けして書ける、④経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける、⑤信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できるようになることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	外国人留学生対象科目	日本語表現作文 F II	実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ①レポート・論文の文体で書ける、②レポート・論文の書き方を守って書ける、③アウトラインに沿って書ける、④信頼性の高い資料を集められることを目標とする。	
		日本語総合 F I	①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る、②まとまった内容の文章の大意を把握する、③できるだけ速く①と②をできるようにすることを目標とする。JLPT の N1 に合格していない場合には、その対策も行う。日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになることを目指す。	
		日本語総合 F II	①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る、②まとまった内容の文章の大意を把握する、③できるだけ速く①と②をできるようにすることを目標とする。JLPT の N1 に合格していない場合には、その対策も行う。日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになることを目指す。実際に日本社会で使用されている生教材を使って速読を行ない、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をする。	
		専門日本語 F I	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。本授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目標とする。	
		専門日本語 F II	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。用意した資料およびタスクシートをもとに講義、ディスカッションなどを行う。ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって、日本での就職活動および就職に必要な知識やスキルを身に付けることを目標とする。	
		日本語会話 F I	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。①まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる、②適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができるようになることを目指す。	
		日本語会話 F II	日本・国際社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。さまざまな問題・話題に関するニュースなどを見て、話し合う方法で進める。また、コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う方法をとる。社会的な話題について、日本語で論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	帰国学生対象科目	日本事情 R I	年中行事やしきたりなど日常生活に見られる日本の伝統文化から、日本人の価値観や考え方について、体験もまじえながら考察する。用意したスライドやプリントに沿って、テーマについて学び、講義後に理解度の確認小テストを行う。その後、クラス全体でフィードバックを実施する。体験で学んだことはレポートを作成し、学生同士で意見交換を行う。異文化理解を深め、異文化に対する柔軟な見方、態度を養い、日本語の表現能力(技術)を高めることを目指す。	
		日本事情 R II	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりする。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学ぶ。各映画について、まず映画についての情報・その他背景知識について説明し、映画の場面をいくつか視聴する。その後、内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題を行い、テーマについてディスカッションした後、「書く」練習をする。日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会および他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、さまざまなテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とする。	
		日本語読解 R	さまざまな分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約し、口頭で説明する練習を行う。専門分野の文章を読むための読解力の基礎を身に付けることを目標とする。	
		日本語文法 R	中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。各回テーマを設け、解説と練習を繰り返しながら進める。中上級～上級の文法項目が運用でき、高度な日本語運用能力を身に付けることを目標とする。	
		日本語表現作文 R	レポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身に付けることを目指す。レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。①レポート・論文の文体で書ける、②読んだ内容を要約できる、③段落分けして書ける、④経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける、⑤信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できるようになることを目標とする。	
		日本語総合 R	①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る、②まとまった内容の文章の大意を把握する、③できるだけ速く①と②をできるようにすることを目標とする。実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ない、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取るための練習をする。日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	帰国学生対象科目	専門日本語 R	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目標とする。	
		日本語会話 R	日本・国際社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。さまざまな問題・話題に関するニュースなどを見て、話し合う方法で進める。また、後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う方法をとる。社会的な話題について、日本語で論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。	
教職課程の設置により開設する授業科目		社会科教育法Ⅰ（地歴分野）	社会科教育の意義や目的、課題について、歴史的な経緯を踏まえて理解する。そのうえで、中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野および高等学校地理歴史科の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。	
		社会科教育法Ⅱ（地歴分野）	中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野および高等学校地理歴史科の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。	
		社会科教育法Ⅲ（公民分野）	本授業は、中学校社会科（公民的分野）、および高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的とする。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進める。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考える。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を行い、学生自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにする。	
		社会科教育法Ⅳ（公民分野）	本授業は、中学校社会科、および高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的とする。そのため、実践的な観点から授業を進めていく。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考える。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、学生自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評し合う機会を設ける。また、近年、選挙年齢が18歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育（主権者教育）の重要性が改めて問われている。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（市民性教育、シティズンシップ教育）をどのように実践できるのかについても考えていく。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程の設置により開設する授業科目	教育原理	「教育」という事象を成り立たせている諸理念・諸概念にはどのようなものがあり、また、それらの諸理念・所概念が「教育」の思想や歴史の中でどのように現れ、変遷してきたのかについての基礎的な知識を獲得することを目指す。さらには、その基礎的な知識を踏まえた上で、現代の「教育」のあるべき姿について、学生それぞれが自分なりに考えを深め、自分なりの理想の「教育」を構想することができるように、思考力や感性を磨いていく。	
	教師論	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職を目指すことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供する。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき、関連するテーマについてディスカッションを通して理解を深める。	
	教育経営論	教育課程（カリキュラム）とは何かについて考える。まず教育課程はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。そして、わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦中・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。とくに、これからのカリキュラム開発では新学習指導要領で言われている「社会に開かれた教育課程」、「アクティブ・ラーニング（能動的学修・学習）」そして「カリキュラムマネジメント」に注目し、その意義などについて理解する。	
	教育心理学	学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身に付ける。具体的には、幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程や意欲、学校における人間関係、個に応じた教育について学ぶ。また、学習活動と関係の深い人間の認知活動についても理解する。その上で、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。さらに、日常生活の中で行われている学習活動や学校などにおける問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。	
	特別支援教育論	教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童および生徒に対する理解」に対応する科目である。「障害」という概念を再構成するとともに、特別支援教育の理念・制度・方法についての歴史的変遷から最新の動向について整理し、現状と課題について考察する。貧困、被虐待、渡日などの特別な教育ニーズのある子どもに対する指導・支援の在り方についても取り扱う。通常学級で多様な教育的ニーズのある子どもがともに学びともに育つ教育を展望する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程の設置により開設する授業科目	教育課程論	教育課程（カリキュラム）とは何かについて考える。まず教育課程はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。そして、わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦中・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。とくに、これからのカリキュラム開発では新学習指導要領で言われている「社会に開かれた教育課程」、「アクティブ・ラーニング（能動的学修・学習）」そして「カリキュラムマネジメント」に注目し、その意義などについて理解する。	
	道徳教育論	日本や世界の「道徳教育」が歴史的にどのように成立し変遷してきたのか、また、そもそも「道徳教育」を「道徳教育」とらしめている一般的な原理とはいったい何なのか。「道徳教育」の歴史や原理に関するこうした基礎的な知識を身に付けることを目指す。また、この基礎的な知識を踏まえた上で、さらにはより具体的かつ実践的に、現代の日本の学校における「道徳教育」の目標や内容について理解し、現代の日本の学校において行われるさまざまな「道徳教育」の指導方法を身に付けていく。	
	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	特別活動の歴史と意義、方法論について学ぶ。また、実践上の課題を捉え、学級活動の指導計画の作成や問題解決に至る関わりについて理解を深める。総合的な学習（探究）の時間の中心である探究的な学習の過程について学ぶ。また、学校が定める目標や内容のもとで総合的な学習（探究）の時間の指導計画の作成や評価について理解を深める。	
	教育方法論	教職課程「教育の方法および技術」に対応する科目である。授業は、①教育方法・教育思想の歴史の概観、教育目標、教育内容、学習、発達、学力、教材論、計画、評価などに関する基礎的な理論、②授業の設計から評価に至る授業構成の理解、③学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の修得、に関する講義と、④授業実践に関するミニ講座によるワーク、⑤グループでの共同作業による教材開発とマイクロ・ティーチングの実施体験により構成する。	
	教育における情報通信技術の活用	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後の在り方について理解する。情報モラルと情報活用能力を用いた指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要な基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身に付けることを目指す。	
	生徒指導論（進路指導を含む）	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめる上で重要な役割を占めている。いじめ、不登校、学級崩壊、暴力行為や非行、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されている。本授業では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、学校組織を構成する教職員、学校外部の専門機関や関係諸団体と協力して解決・改善を目指そうとする素養を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程の設置により開設する授業科目	教育相談(カウンセリングの基礎を含む)	教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。とくに学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身に付ける。	
	教育実習Ⅰ	①教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づいて、受講者は、演習や実習を行う。②教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒理解・生徒指導などの実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。③教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深め、実践できる素養を養う。	
	教育実習Ⅱ	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。①教育実習校において、教科指導、特別活動の指導、生徒理解・生徒指導などの実習を行う。また、大学において事前および事後の指導を受ける。②事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。③教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の指導の下で行う。④事後指導では、教育実習体験報告および反省を行い、教育実習のまとめとして、総括を行う。	
	教育実習Ⅲ	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。①教育実習校において、教科指導、特別活動の指導、生徒理解・生徒指導などの実習を行う。また、大学において事前および事後の指導を受ける。②事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。③教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の指導の下で行う。④事後指導では、教育実習体験報告および反省を行い、教育実習のまとめとして、総括を行う。	
	教職実践演習(中・高)	さまざまな学修を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認する。具体的には、①ガイダンス、②教科における実践上の課題、③教科指導・生徒指導・進路指導の実際、④今日的な教育問題に関する学修からなる。①では、科目の目的などと各自の課題について確認する。②では、教科の専門分野に関する個々の課題についてその分野を専門とする教員の指導、実践上の課題について教科教育法担当教員の指導を受ける。③では、市教育委員会と連携し中学校を2回訪れ、授業見学後、中学校教員の指導を受ける。④では、教職課程教員がそれぞれの専門を活かし、「いじめの現状」「いじめ問題への取り組み」「ジェンダーと教育」「学校の中のマイノリティ」「『甘え』について考える」「『自律』について考える」「体罰について」「授業料無償化と奨学金について」「カウンセリングマインドと生徒対応」「『自分』を知る」をテーマに考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程の設置により開設する授業科目	地域連携教育活動Ⅰ	<p>大学近隣の小学校あるいは中学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動など幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。具体的には、実際の教育現場を知ること、自身の能力や適性を考え課題を自覚すること、社会的倫理観を確立すること、多様な相手に合わせたコミュニケーションがとれることを目標とする。また、こどもの実態を知り、教科指導や生徒指導などを観察、可能であれば参加することで、実践的な指導の基礎固めを行う。</p>	
	地域連携教育活動Ⅱ	<p>「地域連携教育活動Ⅰ」を受け、その体験をもとにさらに学びを深める。「地域連携教育活動Ⅰ」と異なる、あるいは同じ大学近隣の小学校あるいは中学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動など幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。具体的には、実際の教育現場を知ること、自身の能力や適性を考え課題を自覚すること、社会的倫理観を確立すること、多様な相手に合わせたコミュニケーションがとれることを目標とする。また、こどもの実態を知り、教科指導や生徒指導などを観察、可能であれば参加することで、実践的な指導の基礎固めを行う。</p>	

学校法人常翔学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和5年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
摂南大学				摂南大学				
理工学部	585	30	2,400	理工学部	585	30	2,400	
生命科学科	105	5	430	生命科学科	105	5	430	
住環境デザイン学科	85	5	350	住環境デザイン学科	85	5	350	
建築学科	80	5	330	建築学科	80	5	330	
機械工学科	130	5	530	機械工学科	130	5	530	
電気電子工学科	105	5	430	電気電子工学科	105	5	430	
都市環境工学科	80	5	330	都市環境工学科	80	5	330	
経営学部	280	6	1,132	経営学部	280	6	1,132	
経営学科	280	6	1,132	経営学科	280	6	1,132	
薬学部	220	-	1,320	薬学部	220	-	1,320	
薬学科	220	-	1,320	薬学科	220	-	1,320	
法学部	280	5	1,130	法学部	280	5	1,130	
法律学科	280	5	1,130	法律学科	280	5	1,130	
経済学部	280	4	1,128	経済学部	280	4	1,128	
経済学科	280	4	1,128	経済学科	280	4	1,128	
看護学部	100	-	400	看護学部	100	-	400	
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
農学部	340	-	1,360	農学部	340	-	1,360	
農業生産学科	80	-	320	農業生産学科	80	-	320	
応用生物科学科	80	-	320	応用生物科学科	80	-	320	
食品栄養学科	80	-	320	食品栄養学科	80	-	320	
食農ビジネス学科	100	-	400	食農ビジネス学科	100	-	400	
国際学部	250	5	1,010	国際学部	250	5	1,010	
国際学科	250	5	1,010	国際学科	250	5	1,010	
				現代社会学部	250	-	1,000	学部の新設置(認可申請)
				現代社会学科	250	-	1,000	
計	2,335	50	9,880	計	2,585	50	10,880	

令和4年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和5年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
摂南大学大学院				摂南大学大学院				
薬学研究科	4	-	16	薬学研究科	4	-	16	
医療薬学専攻(D)	4	-	16	医療薬学専攻(D)	4	-	16	
理工学研究科	38	-	80	理工学研究科	38	-	80	
社会開発工学専攻(M)	12	-	24	社会開発工学専攻(M)	12	-	24	
生産開発工学専攻(M)	12	-	24	生産開発工学専攻(M)	12	-	24	
生命科学専攻(M)	10	-	20	生命科学専攻(M)	10	-	20	
創生工学専攻(D)	2	-	6	創生工学専攻(D)	2	-	6	
生命科学専攻(D)	2	-	6	生命科学専攻(D)	2	-	6	
経済経営学研究科	10	-	20	経済経営学研究科	10	-	20	
経済学専攻(M)	5	-	10	経済学専攻(M)	5	-	10	
経営学専攻(M)	5	-	10	経営学専攻(M)	5	-	10	
法学研究科	5	-	10	法学研究科	5	-	10	
法律学専攻(M)	5	-	10	法律学専攻(M)	5	-	10	
国際言語文化研究科	5	-	10	国際言語文化研究科	5	-	10	
国際言語文化専攻(M)	5	-	10	国際言語文化専攻(M)	5	-	10	
看護学研究科	6	-	12	看護学研究科	6	-	12	
看護学専攻(M)	6	-	12	看護学専攻(M)	6	-	12	
計	68	-	148	計	68	-	148	

令和4年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和5年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
大阪工業大学				大阪工業大学				
工学部	900	40	3,680	工学部	900	40	3,680	
都市デザイン工学科	100	5	410	都市デザイン工学科	100	5	410	
建築学科	150	5	610	建築学科	150	5	610	
機械工学科	140	5	570	機械工学科	140	5	570	
電気電子システム工学科	125	5	510	電気電子システム工学科	125	5	510	
電子情報システム工学科	110	5	450	電子情報システム工学科	110	5	450	
応用化学科	130	5	530	応用化学科	130	5	530	
環境工学科	75	5	310	環境工学科	75	5	310	
生命工学科	70	5	290	生命工学科	70	5	290	
ロボティクス&デザイン工学部	280	15	1,150	ロボティクス&デザイン工学部	280	15	1,150	
ロボット工学科	90	5	370	ロボット工学科	90	5	370	
システムデザイン工学科	90	5	370	システムデザイン工学科	90	5	370	
空間デザイン学科	100	5	410	空間デザイン学科	100	5	410	
情報科学部	460	20	1,880	情報科学部	460	20	1,880	
データサイエンス学科	70	-	280	データサイエンス学科	70	-	280	
情報知能学科	90	5	370	情報知能学科	90	5	370	
情報システム学科	105	5	430	情報システム学科	105	5	430	
情報メディア学科	105	5	430	情報メディア学科	105	5	430	
ネットワークデザイン学科	90	5	370	ネットワークデザイン学科	90	5	370	
知的財産学部	140	10	580	知的財産学部	140	10	580	
知的財産学科	140	10	580	知的財産学科	140	10	580	
計	1,780	85	7,290	計	1,780	85	7,290	

令和4年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和5年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
大阪工業大学大学院				大阪工業大学大学院				
工学研究科	116	-	238	工学研究科	116	-	238	
建築・都市デザイン工学専攻 (M)	30	-	60	建築・都市デザイン工学専攻 (M)	30	-	60	
建築・都市デザイン工学専攻 (D)	2	-	6	建築・都市デザイン工学専攻 (D)	2	-	6	
電気電子・機械工学専攻 (M)	50	-	100	電気電子・機械工学専攻 (M)	50	-	100	
電気電子・機械工学専攻 (D)	2	-	6	電気電子・機械工学専攻 (D)	2	-	6	
化学・環境・生命工学専攻 (M)	30	-	60	化学・環境・生命工学専攻 (M)	30	-	60	
化学・環境・生命工学専攻 (D)	2	-	6	化学・環境・生命工学専攻 (D)	2	-	6	
ロボティクス&デザイン工学研究科	32	-	66	ロボティクス&デザイン工学研究科	32	-	66	
ロボティクス&デザイン工学専攻 (M)	30	-	60	ロボティクス&デザイン工学専攻 (M)	30	-	60	
ロボティクス&デザイン工学専攻 (D)	2	-	6	ロボティクス&デザイン工学専攻 (D)	2	-	6	
情報科学研究科	45	-	95	情報科学研究科	45	-	95	
情報科学専攻 (M)	40	-	80	情報科学専攻 (M)	40	-	80	
情報科学専攻 (D)	5	-	15	情報科学専攻 (D)	5	-	15	
知的財産研究科	30	-	60	知的財産研究科	30	-	60	
知的財産専攻 (P)	30	-	60	知的財産専攻 (P)	30	-	60	
計	223	-	459	計	223	-	459	

令和4年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和5年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
広島国際大学				広島国際大学				
保健医療学部	220	-	880	保健医療学部	220	-	880	
診療放射線学科	70	-	280	診療放射線学科	70	-	280	
医療技術学科 (臨床工学専攻) (臨床検査学専攻)	100	-	400	医療技術学科 (臨床工学専攻) (臨床検査学専攻)	100	-	400	
救急救命学科	50	-	200	救急救命学科	50	-	200	
総合リハビリテーション学部	180	-	720	総合リハビリテーション学部	180	-	720	
リハビリテーション学科 (理学療法学専攻) (作業療法学専攻) (言語聴覚療法学専攻) (義肢装具学専攻)	180	-	720	リハビリテーション学科 (理学療法学専攻) (作業療法学専攻) (言語聴覚療法学専攻) (義肢装具学専攻)	180	-	720	
看護学部	120	10	500	看護学部	120	10	500	
看護学科	120	10	500	看護学科	120	10	500	
薬学部	120	-	720	薬学部	120	-	720	
薬学科	120	-	720	薬学科	120	-	720	
健康科学部	350	-	1,400	健康科学部	350	-	1,400	
医療福祉学科 (医療福祉学専攻) (介護福祉学専攻) (保育福祉学専攻)	100	-	400	医療福祉学科 (医療福祉学専攻) (介護福祉学専攻) (保育福祉学専攻)	100	-	400	
医療経営学科	90	-	360	医療経営学科	90	-	360	
心理学科	100	-	400	心理学科	100	-	400	
医療栄養学科	60	-	240	医療栄養学科	60	-	240	
健康スポーツ学部	70	-	280	健康スポーツ学部	70	-	280	
健康スポーツ学科	70	-	280	健康スポーツ学科	70	-	280	
計	1,060	10	4,500	計	1,060	10	4,500	

広島国際大学大学院				広島国際大学大学院				
看護学研究科	13	-	29	看護学研究科	13	-	29	
看護学専攻 (M)	10	-	20	看護学専攻 (M)	10	-	20	
看護学専攻 (D)	3	-	9	看護学専攻 (D)	3	-	9	
医療・福祉科学研究科	22	-	46	医療・福祉科学研究科	22	-	46	
医療工学専攻 (M)	10	-	20	医療工学専攻 (M)	10	-	20	
医療工学専攻 (D)	2	-	6	医療工学専攻 (D)	2	-	6	
医療福祉学専攻 (M)	5	-	10	医療福祉学専攻 (M)	5	-	10	
医療経営学専攻 (M)	5	-	10	医療経営学専攻 (M)	5	-	10	
心理科学研究科	22	-	46	心理科学研究科	22	-	46	
臨床心理学専攻 (D)	2	-	6	臨床心理学専攻 (D)	2	-	6	
実践臨床心理学専攻 (P)	20	-	40	実践臨床心理学専攻 (P)	20	-	40	
薬学研究科	2	-	8	薬学研究科	2	-	8	
医療薬学専攻 (D)	2	-	8	医療薬学専攻 (D)	2	-	8	
計	59	-	129	計	59	-	129	